愛媛大学法文学部

同窓会報

第18号
通巻30号
2014.9

章光堂（旧制松高講堂、現附属中学校講堂）

愛媛大学法文学部同窓会事務局
〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内 tel.089-917-6376 fax.089-917-6476 E-mail:aidai-houbun-dosokai@sings.jp
［PCサイト］http://koyu.ehime-u.jp/houbun/blog/ ［モバイル(携帯)サイト］http://www.just.st/?in=308906

愛媛大学
EHIME UNIVERSITY

目　次

池川副会長ご挨拶 …… 2
愛媛大学学部再編について …… 3
松本副学長インタビュー …… 4
加藤学部長インタビュー …… 5
研究室紹介（人文・高安先生）…… 6
（総政・川口先生）…… 7
退職された教員の方々 …… 8
理事会報告 …… 9
支部だより …… 10
提供講座・寄付科目 報告 …… 12
〈論文〉ドイツ図書展 …… 14
〈エッセイ〉城北練兵場 …… 19
ホームカミングデイ …… 22
法文学部人事異動/放送大学 …… 23
本部・支部役員一覧 …… 24
EHIME UNIVERSITY NEWS …… 25
卒業生から …… 28
平成25年度卒業記念祝賀会 …… 30
パズル・編集後記 …… 32

前号（第17号）で紹介したニュートンのリンゴの木に実が生りました。（2014年8月12日撮影、後ろは法文学部同窓会50周年記念時計）

愛媛大学
マスコットキャラクター
「えみか」

表紙写真
上　：章光堂（旧制松高講堂、現附属中学校講堂）
右下：章光堂内部
左下：旧制松山高等学校正門

題字：柴田 祐昭
（文理学部人文学科史学専攻・第8回卒）
［明楽寺住職・愛媛県美術会常任評議員・
県展審査員・毎日書道展審査会員］

ご挨拶

法文学部再編検討下、同窓会の活動にご協力、ご支援をお願いします

愛媛大学法文学部同窓会副会長
池川 孝文
（1972年法学科法律専攻卒業）

昨年１月から、新任の森孝明会長、留任の小池昭彦副会長のもと、新米の副会長に就任いたしました。愛媛県庁に勤務していた関係で、従来より同窓会の諸活動に参加を重ねていたところ、このようなこととなりました。３年の任期のちょうど折り返し地点を過ぎましたが、同窓会活動について、皆様のご協力、ご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、同窓会では、３年毎の総会のほか、毎年、大学のカリキュラムとして、同窓会の会員が非常勤講師に就任して学生の就職活動等に参考になる講義を行う提供講座、同窓会が経費を負担して行われる寄付科目について、学部に協力するとともに、同窓会報の発行、年３回の理事会開催等を行っております。特に提供講座は、学生に好評を博しています。

また、支部活動として、毎年総会を開催している関東支部「東京章光会」、関西支部「にきたつ会」、広島支部、四国支部の活動を支援しております。

さらに、愛媛大学の全学部の卒業生等を包括している校友会とも連携を取り、毎年11月の開学記念日頃に行われる「ホームカミングデイ」にも積極的に参加するとともに、他学部の同窓会とも連携を取り情報交換に努めています。

このような中、理科系を重視する文部科学省の強い指導により、法文学部の名称及び学生定員数を維持していくことは、非常に困難となっているため、新聞報道等によると、大学では、2016年度にも法文学部の名称が、「人間社会学部」（仮称）に、また、定員数の一部が、他学部の一部とともに「社会共創学部」（仮称）にそれぞれ再編される方向で検討されております。

同窓会の収入のほぼ全額が、学生が入学時に負担していただく１人１万円の会費であるため、同窓会としては、学部再編の動向に適合する対応を求められております。本年、同窓会設立55周年を迎えましたが、私は法文学部創設の1968年度に入学しただけに、個人的には、「法文学部」の名称がなくなることは断腸の思いもあるものの、愛媛大学の存続、発展のためには、同窓会としても、皆様のご協力をいただいて適切に取り組んでまいりますので、よろしくお願いを申し上げます。

最後になりますが、同窓会報は、従来20頁を基本として全頁カラー印刷を行ってきましたが、情報発信力を強化するため、他学部の同窓会報を参考にし、従来程度の発行費用で対応できる、カラー刷り16頁、白黒刷り16頁の32頁建てとし、愛媛大学の歴史に係る文章２編を掲載しました。是非熟読していただくとともに、次号以降の投稿にご協力をいただきますようお願いします。

愛媛大学　学部再編

法文学部の学部名・学科構成・定員数が変わります！

（2016年度から実施で検討中。但し2015年3月大学設置審議会に諮られて正式に決定）

- **法文学部 → 人間社会学部（仮称）**
- **人文学科・総合政策学科（2学科）→**
  人間文化学科、公共政策学科、グローバル・スタディーズ学科（3学科）
- **505名 → 2/3の定員に削減**

今日、国立大学は自らの改革が求められ、大きな変化を遂げようとしています。その規模と内容は2004年の国立大学法人化をも上回るものであり、むしろその法人化への厳しい評価の下で、各大学とも政府財務省・文科省に厳しく求められているものです。文科省は2012年６月には「大学改革実行プラン～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～」を発表、2013年11月には「国立大学改革プラン」を提示して、行政主導で改革の方向とロードマップを提示しました。

少子化と国の財政難による大学の危機が背景に

その背景には、大学の危機があります。急速に進行する少子化の中で日本の４年制大学はこの間増加しており、半分近い私立大学での定員割れ、入試無しでの入学者の増加と学生の深刻な学力低下、引きこもりや休学率・退学率の上昇、従来の授業形態の維持困難など多くの課題を抱えています。

また上記の大学サバイバルに加えて、国全体の財政難の中での経済発展重視の政策のために、文系は私立大学に委ねて、国立大学（税金）は理系に配分したい国の意向も見え隠れしています。

その中で、愛媛大学と法文学部は積極的に改革案を準備し、１年間に亘る昼夜を分かたぬ学内議論と文科省との折衝を重ねて、先駆的な改革を推進しようとしています。法文学部の名称が無くなる寂しさはありますが、21世紀の国民の負託に応え発展を続ける愛媛大学のチャレンジを、同窓会としても理解し可能な支援をすべきだと考え、松本副学長・加藤学部長にインタビューを行いました。

インタビュー・文責
同窓会理事　**山本　求**

4つの改革

① 地域に特化した新学部「社会共創学部」（仮称）を設置
② 法文学部を改組して「人間社会学部」（仮称）を設置
③ 教育学部の新課程を廃止し、教員養成に特化
④ 農学部を1学科から3学科に改組

「2016年4月組織改革構想」につき変更となる場合があります。

1 社会共創学部（仮称）新設
- 産業マネジメント学科
- 産業イノベーション学科
- 環境デザイン学科
- 地域資源マネジメント学科

2 法文学部 →
- 総合政策学科
- 人文学科

人間社会学部（仮称）
- 人間文化学科（昼・夜）
- 公共政策学科（昼・夜）
  行政履修プログラム
  法律専門職履修プログラム
  ロースクール進学特別履修プログラム
  企業・総合履修プログラム
- グローバル・スタディーズ学科（昼）
  外国語運用能力の強化、異文化理解の実践、交渉力・協働力の強化を図る実践的諸科目（グローバルコア科目群）を配置し、英語を中心とした語学力と汎用能力を伸ばします。
  原則として全ての学生が海外体験（インターンシップ、フィールドワーク）をし、語学力や汎用能力の向上を促進します。

3 教育学部
- 学校教育教員養成課程
- 特別支援教育教員養成課程
- 総合人間形成課程
- スポーツ健康科学課程
- 芸術文化課程

↓
- 学校教育教員養成課程
- 特別支援教育教員養成課程

4 農学部
- 生物資源学科

↓
- 食料生産学科
- 生命機能学科
- 生物環境学科

Interview
Osahiko Matsumoto

松本長彦・愛媛大学副学長（法文学部同窓会理事）インタビュー

政府財務省・文科省から大学改革の強い要請

ここ数年、大学の再編に向けて全国の大学は文科省から学部ごとの「ミッションの再定義」が求められましたが、そのやり取りの中で、総じて地方国立大学の文系は私学に任せたいという方向がありました。「隣に松山大があり同じ学部があるのに、どうしてこれだけの文系の定数を持たなくてはならないのか」「税金をかける意味があるのか」と問われ、それへの説得力がある再編計画を提案しなければなりませんでした。またその背景には、全国的に私立大学から文科省への生き残りのための突き上げもあるようです。

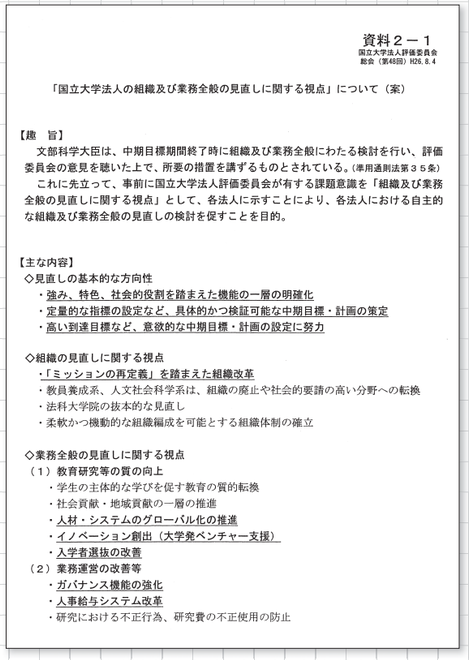
国立大学の交付金は国としての経常経費ではないので、財務省に対する説明が毎年必要ですし、説明できるものに予算を付けるということになります。それは法人化の時から言われてきましたし、今回の国立大学改革でも「重点的な予算配分」ということで改めて打ち出されています。文科省としては財務省に説明できるものを持ってきてほしいということです。

しかし理系学部と違って文系学部の評価は、財務省に対しても国際的にも難しいものです。理系は世界に太刀打ちできる分野はありますが、文系は簡単ではありません。文科省は直接には定員を減らせとは言いませんが、他大学が自ら定員を減らしてきたことを例として持ち出して評価したりします。

減らした文系定員を新学部に移行

だったら「法文のミッションは『教育』なのか？」「法文学部としてどういう人材育成の方針や成果があるのか？」と聞かれて、結果は明確でないと評価されました。そこで新学部を打ち出して改革の方策を示し、同時に定数減をそこに吸収する構想となりました。それが新学部の「社会共創学部」（仮称）です。

法文学部は、2/3程度の規模に定員削減を検討中です。その減員と教育学部（ゼロ免課程）の減員を活用して「社会共創学部」（仮称）の新設を計画中で、ここにきて文科省から「準備を進めてもらって結構です」と言ってもらっています。ただ、正式な決定は2015年３月からの大学設置審議会での審議決定後になります。



資料２－１
国立大学法人評価委員会
総会（第48回）H26. 8. 4

「国立大学法人の組織及び業務全般の見直しに関する視点」について（案）

【趣　旨】
文部科学大臣は、中期目標期間終了時に組織及び業務全般にわたる検討を行い、評価委員会の意見を聴いた上で、所要の措置を講ずるものとされている。（準用通則法第３５条）
これに先立って、事前に国立大学法人評価委員会が有する課題意識を「組織及び業務全般の見直しに関する視点」として、各法人に示すことにより、各法人における自主的な組織及び業務全般の見直しの検討を促すことを目的。

【主な内容】
◇見直しの基本的な方向性
・強み、特色、社会的役割を踏まえた機能の一層の明確化
・定量的な指標の設定など、具体的かつ検証可能な中期目標・計画の策定
・高い到達目標など、意欲的な中期目標・計画の設定に努力

◇組織の見直しに関する視点
・「ミッションの再定義」を踏まえた組織改革
・教員養成系、人文社会科学系は、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換
・法科大学院の抜本的な見直し
・柔軟かつ機動的な組織編成を可能とする組織体制の確立

◇業務全般の見直しに関する視点
（１）教育研究等の質の向上
・学生の主体的な学びを促す教育の質的転換
・社会貢献・地域貢献の一層の推進
・人材・システムのグローバル化の推進
・イノベーション創出（大学発ベンチャー支援）
・入学者選抜の改善
（２）業務運営の改善等
・ガバナンス機能の強化
・人事給与システム改革
・研究における不正行為、研究費の不正使用の防止

国立大学法人評価委員会総会の資料（一部）

前・後期の2学期（セメスター）制から4学期（クォーター）制に

クォーター制は、文科省の許可がなくても大学で決められます。狙いは2つ。

① 「グローバル化」対応で、少なくとも２か月の１クォーターと２か月の夏・春休みとを組み合わせて、４か月はキャンパスの外に出す

② ２か月の短期の履修で教育効果を上げる
試験も４回、テキストも４回必要になります。同じ科目が月・木、火・金の週２回の授業の組み合わせになり、講義と演習を交互にもできます。休みとセットするクォーターは、必須科目を外して外に出やすいようにしたいのですが、どの学年がいいのかを検討中です。

Interview
Yoshifumi Kato

加藤好文・法文学部長（法文学部同窓会理事）インタビュー

法文の定員数は約2/3に削減

法文学部は2016年度から名称を変更して「人間社会学部」（仮称）としての募集を検討しています。505名の定数（人文学科　昼間125・夜間主50、総合政策学科　昼間270・夜間主60）は2/3規模に減少します。新しい学科は「人間文化学科」、「公共政策学科」、「グローバル・スタディーズ学科」で構成される予定で、夜間主は維持の方向で検討中なので定数はさらに増える可能性もあります。

「社会共創学部」（仮称）の定員は、法文からは減った定数のいくらかが移行することになります。またそれに伴って、現在の人文学科・総合政策学科から教員も移ることになり、そのメンバーはほぼ固まりつつあります。

昼夜に亘る改革論議

１年前から学長主導で改革論議が始まりました。これから財政の重点化配分が本格的に始まります。文系は私学に、国立大学は理系重点という意向が文科省にありますので、今のままの形では学部の存続が難しく、そこで新学部設置が改革の方向として打ち出されました。この１年は大変な議論の連続で、臨時教授会も再三開催して、昼夜に亘る議論になりました。ようやくまとまって、来年（2015年）３月の大学設置審議会に向けて文科省からも「準備しておいて下さい」と言われる段階に入りました。

「社会共創学部」（仮称）は地域貢献、「人間社会学部」（仮称）はグローバル人材育成

「社会共創学部」（仮称）のミッションは地域貢献で、「法文学部」は「人間社会学部」（仮称）と名称を変えて「人間文化、公共政策、グローバル・スタディーズ」の３学科に再編し、学部のミッションは「グローバル化」「グローバル人材の育成」となりました。まさにどんな人材を育成するかが問われます。その点で新しい「グローバル・スタディーズ」が核の学科となります。

2016年度から「人間社会学部」（仮称）としてスタートしても、その時点では２～４回生は法文学部生としてのカリキュラムなので、４年間併存することになります。４年かけて新学部に移行するということです。

今回の改革に伴い学部名称の変更もあり、定員減に伴う財政問題などがあることは、私も同窓会理事なので承知していますが、法文学部の同窓会の皆さんには、是非とも新しいミッションの実現と学部発展のために引き続きのご支援とご協力をお願いします。

法文学部同窓会として

お二人のインタビューを通じて、今回の愛媛大学全体の中で文系の法文学部が真っ先に改革の先鋒を担わされたことは明らかですが、「変化をチャンスに」――21世紀にふさわしい愛媛大学と「人間社会学部」（仮称）の発展を願うと共に、同窓会としても新しいミッションの実現に貢献できるよう新たな取り組みが必要と考えます。

同窓会員の皆様の引き続きのご支援ご協力をよろしくお願いします。

研究室紹介

前号でご好評いただいた「研究室紹介」をシリーズ化することにしました。第2弾は、前号でインタビューした先生から「友達の輪」式のご紹介を受け、取材してきました。

人文学科

高安啓介准教授

表現文化論

Q芸術関係の学問は、法文学部では珍しいのですか。

A人文学科には、文学や演劇について話をしている先生もおられるのですが、現代の芸術全般にわたる問題について考えたり、美術や音楽について理解を深めたりすることは、あまり他ではできないことかもしれません。

Q芸術と一口に言っても、いろいろありそうですね。

Aはい、太古の昔から現代にいたるまで「芸術的」ないとなみがあったとは言えますし、世界各地において「芸術的」ないとなみがあったとも言えます。そしていろいろなジャンルがあります。美術・音楽・演劇・文学・映画・写真などです。私がいま取り組んでいるのは20世紀からのデザインの歴史で、学生もそういった方向で勉強したり研究したりしていることが多いです。

Q：学生の研究テーマで面白かったものは？

Aタイポグラフィという活字をもちいたデザインについて研究をしたり、このタイポグラフィをもちいた詩について調べたり、絵本や漫画についてデザインの観点から論じたり、建築から工芸までテーマとなりうるものは幅広く、それぞれに面白さがあります。こういった分野に興味を持っている学生は、最近多いですね。たしかに、学生の時にこういう勉強をしていても、社会に出て直接役に立つ訳ではないのですが、自分のテーマを決めて資料を集めたり、作品を見て回ったり、調査をおこなったりする経験そのものが将来に生きてくるのかもしれません。

Q高安先生は学生さんからとっても親しまれているとお聞きましたが？

Aどうでしょう。自分ではあんまり思い当たるふしはないんですけどね(笑)。たぶんぼく自身というよりも、ぼくのしている分野が、学生たちに興味を持ってもらいやすいからかな。ただ、面白そうと思って入ってきても、実際それを調べたり勉強したりしてみると最初の印象とだいぶ変わってくるものです。目で見て楽しいと思っても、卒論は言葉で書かなくちゃいけない。日本語でいかに分かりやすく説明できるかが大事であって、そういうところに喜びを覚えられるように指導するのが難しいところです。

Q先生が外国に研究に行かれて帰国した際に、学生から「おかえりなさい」のメッセージの色紙が部屋に張り巡らされていたとか。(左下写真)

Aうれしかったですね。昨年イギリスに半年間行かせてもらったのですが、ぼくのいないあいだ、学生たちには、週に1度、おしゃべりをしていてもいいからとにかくその日は集まるように言っていました。勉強も大事ですが、友人どうしの関係を大事にしてほしいと思ってのことです。

Q三味線をされているとか。

Aあんまり上手くはありません。3年ほど前までは、雅楽から長唄まで、日本の伝統音楽の響きが、むしろ、現代音楽に通じるところがあるということに着目していました。三味線のいいところは、棹の部分が三分割できるところです。持ち運びしやすいので、海外で日本の伝統音楽の特徴を紹介する際に、とっても便利なんです。現代の日本人もまた、西洋由来の音楽になじんでいて、伝統音楽はなじみが薄くなっていますが、それだけに、聴いていて変に思えるところや、ずいぶんと斬新だなと思えるところがあるんです。

⬅楽器ケースから鮮やかなカバーに包まれた三味線が…

Qほかにご趣味は？

Aないですね。研究でしていることが趣味みたいなものですから。でも趣味だとも言いたくはありません。授業の始めにかならず言うことがあります。芸術についてわざわざ学ぶというのは、自分自身のそれまでの趣味を超えることであるのだと。というのも、人間はたいてい自分の好きなものしか見ようとしません。そうなるといきおい視野が狭くなってしまいます。大学で学ぶ意味は、自分がそれまで知らなかったことにも関心をもつようになることです。私がいまデザインの歴史について学生のみなさんと学んでいるのも、趣味的なものの見方を克服しようというねらいからなんです。

Q学生時代はどんな学生でしたか？

A学生の時はそうですね、学部のときはそんなに勉強熱心ではなかったかな…。ボート部で、ずっと合宿所に住んでいたみたいな感じで(笑)。もっと勉強してればよかったと少し後悔しています。

Qご結婚は？

Aはいしてます。10歳の男の子がいます。これは、息子が学校の授業で作ったレポートで、プレゼンテーションしたんでしょうね。親の仕事を紹介しています。

⬅息子さんが作った仕事紹介のレポート

Q卒業生へ何かお願いします。

A卒業してから、大学で学ぶことの大事さを思い知るということはよくあります。私もそうです。学び直しもできますし、講演会などもありますし、会報やホームカミングデイなどでぜひ大学に関心を持ってみてください。大学のHPに授業紹介もありますのでぜひ御覧になってください。

総合政策学科

川口和仁准教授

数理経済学

Q数理経済というのは、法文学部の中の理系という感じですが？

A数学の授業もやってますし、数学の論文も書いてますからね(笑)。理学部におられた先生と7本ほど共同論文も書いてますが、経済学的に意義のあるテーマと数学的に意義のあるテーマのちょうど重なる領域となるとすごく狭いし、しかもちゃんと結論が出ないといけないので、そこをうまく調整して探すのに本当に苦労しました。

地域コースや観光まちづくりコースが設立される前には、依頼を受けて地域関係の論文も何本か書きました。「頼めばなんでもやる」と思われているのかもしれませんね(笑)。学内の人権問題相談員もそうですが、委員長を引き受けたら、後を引き受けてくれる人がいなくて任期終了後もしばらく業務を続けたことがありました。

労働組合の執行委員長をしていた時期は、団体交渉でだいぶ学長を怒らせたかもしれませんが、よその大学に比べ、給与削減が始まるのは遅かったですし、トータルで見ると、労働組合が粘り強く交渉を進めた大学と比べても遜色のない下げ幅には収まりました。執行委員長時代は、僕が交通事故に遭ったこともあり、ほかの委員の方々には迷惑をかけてしまいました。

Q交通事故とおっしゃいますと？

A２年前の７月に中央通で、僕が青信号で渡っていたら信号無視の車にはねられたんです。それで、くも膜下出血と脳挫傷と全身打撲と肋骨が５本折れて、日赤のICUに運ばれたんですけど「生きてるのが奇跡」と言われました(笑)。

授業も、それまでのグループワークが終わり、最後にプレゼンをする段階で、そこまでの経過がありますから、ほかの人が聞いても評価できないだろうというので、病院に許可もらって外出してね。歩くのも大変だし、呼吸がしづらい上に、声も全く出ない。さいわいうちの学生は、優しい子が多いですし、優秀なので助けられました。

⬆2013年度ゼミ卒業式（左から4番目が秦まどかさん）

卒業生もよく遊びに来てくれます。2013年度ミスユニバース全国5位の秦まどかさんもゼミの卒業生です。このときは「まどかフィーバー」が起こりました(笑)。卒業生にも呼びかけて、みんなで応援して楽しかったです。OBも動員して、Web投票に励みました。

⬆2013年度ゼミ全体忘年会

小説家になったゼミ生もいます。かなり売れてるようで、昨年会社をやめて専業作家になりました。で、暇なのでゼミのコンパに呼んでくださいと言われてます。卒業生がたくさん遊びに来てくれるのは嬉しいんですが、それで土日がかなりつぶれています(笑)。

うちのゼミは、ゼミ生が選抜の面接をするんです。先輩がゼミに入れる後輩を決めるんです。

Qユニークですよね。

Aそうみたいですね。夜中までかかってゼミ生が選考してます。1回決まっても覆ったりしてね。学力だけでなく、話す時間をかなりとって、人物本位で決めてます。特に数学が得意とかは関係ないです。

Q面接官の立場を経験するということで、とても就職に役立ちそうですね。

Aそうなんです。それを一番に考えて、彼らにやらせてるんです。15年ぐらい前からかな。最初は学生の方から言ってきたんです。「自分たちで選びたい」って。それからは、僕はオブザーバーの立場で見守ってきました。

Qお嬢さんがお二人いらっしゃるとお聞きしましたが？

⬅お嬢さんとの写真が載ったパンフレット

Aはい。高2と中2でね、僕もバンド活動をやっていたんですけど、娘2人も音楽が趣味で吹奏楽部に入っています。中学では長女が中2の年から4年連続で全国大会に出場しているので、応援に行くのが大変です。カンパも集めないといけなくて、保護者会が近所の店をまわったりして負担は大きいですね。長女が入部した当時は無名校だったんですけどね。

Q先生は徳島のご出身ですか？

Aそうです。実家はインテリアをやっています。僕も最初は継ぐつもりで商業高校に入ろうとしたら、成績が悪くて全然無理って担任に言われて、それはまずいと夏休みに必死に勉強しました。そしたら成績が上がって、今度は「これは普通科に行ってもらわないと困る」って言われて(笑)。それで普通科に志望変更したのが運のつきですね。実家は商売の継ぎ手がいなくなった(笑)。今も両親が頑張ってますけど…。

Q卒業生に向けて何かありましたら。

A少し前に「仕事をやめたい」ってメールをくれた子がいるんですけどね。メンタル面でしんどくなったら、少し長期休暇をとって自分のことを見つめ直してね、それで余裕があれば、大学にも相談に来てほしい。できるだけ相談に乗りますから。学生時代の初心に帰る機会にもなると思います。ほかの先生もみんなそう思ってますから、選択に迷ったときには、相談相手の選択肢の中に指導教員というのもぜひ入れておいてほしいです。

※文中に登場する「小説家になったゼミ生」とは、2010年度卒業の玉井健之（ペンネーム・近松春日）さんです。著書は、「ルーントルーパーズ自衛隊漂流戦記」シリーズ1～3巻で、アルファポリス社から出版されています。

Message from Professor

退職された教員の方々

① 愛媛大学に来られた年
② 所属の学部学科
③ 研究・専門について

坂根照文先生

① 昭和55(1980)年
② 法文学部人文学科
③ 心理学

出　　生 昭和23(1948)年
出身大学 京都大学文学部(1972年卒業)
最終学歴 京都大学大学院文学研究科博士課程(1977年単位取得退学)
学位・称号 文学博士
所属学会 日本心理学会・日本動物心理学会

愛媛大学法文学部人文学科に私が着任したのは1980年4月1日でした。それから34年が過ぎました。色々な事がありました。振り返ってみると、月並みな表現ながら、楽しい事ばかりのあっという間の34年間でした。

この間に大学には大きな変化がいくつかありました。著しいのは、教育方針の変化と、それにともなう学生の勉学態度の変化でしょう。退職の4、5年前頃から不思議な出来事を構内で頻繁に経験しました。大学構内を歩いていると、ここは本当に大学なのかと錯覚しました。歩いている、集まって話をしている学生が少ない。ところが、昼休みや、時限と時限の休み時間には、驚くほど多数の学生を見かけます。これほど多くの学生がいるんだ。授業を終えて、教室から出てきたのでしょう。授業に出席するのが学生のつとめ、講義を聴くのが勉学だと考えているのでしょう。顰蹙を買うのを承知の上で申し上げれば、これでは東隣の中学校や西隣の高等学校と同じ。講義を通して知識を習得する事は必要であるのは認めつつも、大学とは自ら学ぶところ。卒業論文のテーマを自ら選び、それについての論文を参考にしながら、新たな視点を考える。これが大学での勉強であると考えながら学生を指導してきた30余年でした。

新入生や在学生に申し上げる事であり、同窓会報に記すべき内容でないのは承知しつつも、法文学部の発展に資すればと記した次第です。

宮崎幹朗先生

① 昭和60(1985)年
② 法文学部法学科・総合政策学科
③ 家族法・家族政策

出　　生 昭和29(1954)年
最終学歴 九州大学大学院法学研究科博士後期課程(1982年退学)
学位・称号 法学修士
所属学会 日本私法学会、比較法学会、日本法社会学会、日本家族〈社会と法〉学会、比較家族史学会、英米法学会

3月末をもって退職し、現在は福岡市にある西南学院大学で勤務しています。法学部で、家族法と民法総則を担当しながら、兼務で法科大学院においても家族法を担当しています。

昭和60年の10月に香川大学教育学部から法文学部法学科に転任してきて以来、28年半、法文学部でお世話になりました。その間には、教養部廃止に伴う総合政策学科への組織改編や国立大学法人化もあり、そのたびに変革の流れに振り回されてきた気がします。

法文学部で私がしてきたことを振り返って考えてみると、8～10年程度を一つの目安として3つに区分できるように思います。最初は、法学科で民法を担当し、民法総則から物権法、債権総論、債権各論、家族法のすべての授業をしました。皆さんの中には、民法をすべて私から習ったという方もおられるはずです。その後、総合政策学科へ組織改編されて、家族法以外に、家族政策と法政策学という政策的な授業科目も担当するようになりました。総合政策学科となってからの卒業生の皆さんの中には、「チグリスとユーフラテス」のレポートを書いた方もいるでしょう。そして、最後の8年間は、地域創成研究センター長として、また新しくできた地域コースの担当教員として、地域の問題について取り組みました。フィールドワークを中心とした授業で地域の多くの方々と触れ合いながら、学ぶことの楽しさを体験した卒業生も多いはずです。そして、長い間にわたって私のゼミを受けてくれた卒業生たちのことは忘れられません。

愛媛で暮らした28年間余の間、いろいろなことがありました。良かったことだけではありませんが、愛媛と愛媛大学に感謝しています。ありがとうございました。同窓会のさらなる発展を祈っております。

理 事 会 報 告

2013年度 第2回(通算第60回)理事会

日　時：2013年10月25日（金）18：00～21：00
場　所：愛媛大学校友会館２階サロン
出席者：29名

【報告事項】
1．第４回ホームカミングディについて
2．2013年度・法文学部同窓会提供講座「社会と人間」
　2013年10月3日（木）～2014年1月23日（木）まで15回
3．2013年・第17号同窓会報発行
4．支部活動・支部長会など報告
　東京章光会　7月20日（土）
　関西にきたつ会　7月21日（日）
　広島支部総会　10月19日（土）
5．大学関係行事、会長会・校友会理事会報告
　愛媛大学同窓会会長会　6月26日（水）
　校友会理事会・定期総会・懇親会　７月27日（土）
6．青島守備軍司令部寄贈ドイツ図書展について
　ドイツ図書384冊展（愛大ミュージアム）
　　11月17日（日）～12月23日（月）
　特別講演会「松山の歴史発見」（愛媛大学南加記念ホール）
　　11月17日（日）13:00～16:00
7．会報発送時の名簿データ委託契約について
8．規約改定について

【審議事項】
なし

2013年度 第3回(通算第61回)理事会

日　時：2014年２月14日（金）18：00～21：00
場　所：愛媛大学校友会館２階サロン
出席者：21名

【報告事項】
1．2013年度・法文学部同窓会提供講座「社会と人間」
　1/23（木）森会長の「まとめ」で全15回を終了。例年通り反省会・懇親会（21名出席）を開催
2．2014年度会報編集委員会スタート
3．青島守備軍司令部寄贈ドイツ図書展
　昨年で終了の予定が好評につき１月末まで延長
4．支部活動・支部長会など報告
　四国支部総会　11月8日（金）
　支部長会議　11月9日（土）
5．大学関係行事、会長会・校友会理事会報告
　章光堂改修記念式典　11月2日（土）
　第4回ホームカミングディ　11月9日（土）
　愛媛大学同窓会会長会　1月29日（水）
6．法文学部アンケートへの名簿データ提供について
7．2013年度決算（暫定）について
8．愛媛大学の学部再編について

【審議事項】
1．東京章光会50周年記念事業への支部援助金について
　通常の援助金の上限40万円から増額して80万円にして欲しいと関東支部から要望がありました。
　→　承　されました
2．2014年度予算案について
　収入は昨年度同様560万円が見込まれます。支出は800万円を切る予算としましたが240万円の赤字です。今後、寄付科目（4コマ60万円）を半分（2コマ30万円）に減らし、会報の出費を抑えることを検討課題とします。
　→　承　されました

2014年度 第1回(通算第62回)理事会

日　時：2014年6月13日（金）18：00～21：00
場　所：すし丸本店（松山市二番町2丁目3-2）
出席者：30名

【報告事項】
1．2014年度・法文学部同窓会提供講座「社会と人間」
2．2014年度会報編集委員会
3．法文学部　卒業・入学者数
【2014年3月卒業生】

総合政策学科	男150名	女198名	計348名
人文学科	男58名	女139名	計197名
総計	男208名	女337名	計545名

【2014年4月新入生】

総合政策学科	昼間主295名	夜間主80名	計375名
人文学科	昼間主136名	夜間主61名	計197名
総計	昼間主431名	夜間主141名	計572名

4．支部活動・支部長会など報告と予定
5．大学関係行事報告、会長会・校友会理事会予定
6．愛媛大学の学部再編について
　大学内で進んでいる学部の再編について、松本先生・加藤先生にお話し頂きました

【審議事項】
1．2015年度法文学部同窓会寄付科目・提供講座の開講について
　→　承認されまし
2．2013年度決算報告および承認
　1）収入564万2,598円（昨年590万9,752円、予算555万円）に対し、支出801万3,872円（昨年886万200円、予算772万4,300円）となり、237万1,274円の赤字となっています。例年のように、学部との連携・交流、支部活動、会報発行が全体の大部分を占めています。
　2）収入は、新入生会費が563万円、利子収入が1万2,598円、計564万2,598円で、予算よりも9万2,598円増えています。
　3）支出では、事務局手当96万円、法文学部事務謝金5万円、交通費21万1,400円、三役会議・理事会・監査経費55万7,521円、新卒業生30万円、支部活動費173万9,675円、会報発行経費292万5,788円、事務経費22万5,766円、学部学生就職支援85万8,142円、渉外活動費12万円、雑費6万5,580円、計801万3,872円で、予算に対して28万9,572円多くなっています。これは昨年2月の理事会懇親会の支払いが今年度にずれ込んだことと、広島支部の支部援助金を２年分まとめて支払ったことによります。
　4）5月27日（火）に、高谷監事と畑中監事により監査を行いました。
　→　承認されまし
3．2014年度の事業計画
　1）同窓会報は、同窓会員への大学紹介や会員相互の情報交流の場として、毎年１回の発行を行います。同時にホームページの充実を図ります。
　2）支部活動の活性化を重視し、会長・副会長・理事を中心に各支部総会へ出席して交流を深めるとともに、支部長会議を開催します。
　3）８年目を迎える「提供講座」を充実させます。各分野の講師との交流を深めるだけでなく、現役学生とのつながりを広げます。
　4）同窓会名簿の精度を高めます。
　5）日常の活動強化の基本となる、明るく活発で民主的な理事会運営に努めます。
　6）法文学部の再編に合わせた同窓会活動の今後について検討します。
　→　承認されまし

支部だより

関東支部［東京章光会］

平成26年東京章光会第50回記念総会は台風一過、梅雨の晴れ間の7月12日（土）に東京、大手町の「サンケイプラザ」にて開催されました（写真）。

総会当日は松山より法文学部長の加藤好文教授、上山友一准教授、愛媛大学校友会の森本惇会長、法文学部同窓会本部の森孝明会長、また、法文学部同窓会大阪支部、四国支部、広島支部、他学部同窓会東京支部他より多数のご来賓にご出席いただき、約65名の出席者をもって開催することができました。

総会では、阿部会長の挨拶の後、加藤学部長による「法文学部のミッション」と題した講演会を開催、愛媛大学のこれまで果たしてきた役割と、その強み、特色を生かした中長期的な教育研究組織の在り方を中心としたお話に参加の皆様も熱心に聴講されておられました。

続いて開催された懇親会では、森本校友会会長によるご挨拶、森同窓会長による乾杯のご発声等の後、懇親に入りました。今回は50周年の記念総会という事で、桐朋学園大学音楽学部ＯＧを中心とした3名の演奏家をお招きし、ピアノ、バイオリン、チェロの三重奏によるクラシック音楽をお楽しみいただきました。

メンデルスゾーンのピアノ三重奏曲第一番他4曲を披露して頂きましたが、その美しい音色に参加者の皆様からも拍手喝采、大好評を博しました。

森田顧問による東京章光会創設当時のお話、松山市東京事務所の福田さんによる“松山フェニックス（都市対抗野球本戦に初出場）”を中心としたＰＲ、恒例の福引抽選会をはさみ、全員で学歌を斉唱し閉会となりました。

永年の課題であります若手会員の参加者増につきましても、昨年初参加の若手に加え、数名の初参加者を迎えなごやかに懇談することができ、総会終了後の2次会も大いに盛り上がりました。

来年に向かってより多くの会員の方々、幅広い年代の方々に参加していただき、楽しく交流できますよう、役員、幹事一同頑張っていきたいと思っております。

東京章光会　事務局　森脇孝典

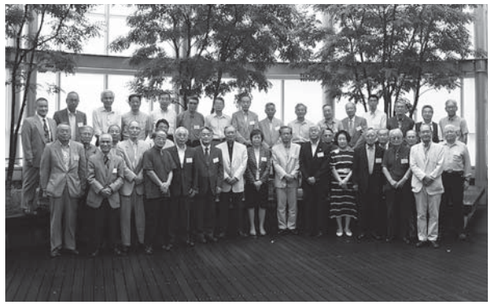
（東京章光会連絡先）
Tel ／ Fax　03-5440-9073
（愛媛大学サテライトオフィス東京内）

関西支部［にきたつ会］

にきたつ会は平成26年7月13日（日）に、大阪市のブリーゼ・プラザにおいて平成26年度定時総会を開催いたしました（写真）。

台風一過の猛暑の中、ご来賓には法文学部長の加藤好文先生、同窓会本部から西田和眞理事、東京章光会から阿部仁会長、四国支部から宇都宮真由美支部長、広島支部から岡田禎之支部長のご出席を賜り盛大に開催することが出来ました。

総会は岡本会長の挨拶ののち、平成25年度活動報告、平成26年度活動計画ならびに平成25年度収支計算書及び貸借対照表につき、平田副会長・吉富会計幹事・合田会計監事から説明・報告があり、それぞれ満場一致で承認されました。



総会の後、法文学部長の加藤好文先生から「法文学部のミッション」と題してご講演を賜りました。愛媛大学の将来を展望し大学が、また法文学部がいかに変貌し時代の流れに沿って発展し続けるかという、大きな転換期に来ている事を踏まえ、方向・方針を鋭意検討し取り纏めの段階に来ているとの説明と報告がありました。出席者一同初めて聞く方も多く戸惑いもあり、今後の推移を注視していこうという雰囲気が会場に漂っていたように感じられました。

小休憩ののち、懇親会に入りました。澤井副会長の総合司会のもと、ご来賓紹介・ご挨拶ののち岡田広島支部長の乾杯でにぎやかな懇親会が始まり盛り上がりを見せました。

従来、有志だけで行っていた万葉ウォークをにきたつ会の行事として行うこととし、安藤幹事から説明がありました。参加希望者を募ったところ申し込みも多数あり、「11月頃に秋の室生寺を予定している」ということで、詳細が決まり次第連絡することとしました。

また、懇親会の中で近況報告をする時間を設けましたが、かなりの会員の方から有意義な活動をお聞かせいただき、非常に参考になりました。

楽しく弾んだ懇親会も終わりを迎え、「愛媛大学学歌」「三光寮を歌う」を合唱し、再会を約してすべての予定を終了しました。皆様方、本当に有り難うございました。

にきたつ会　幹事一同

（関西にきたつ会連絡先）
支部長　岡本正明　TEL　0742-34-0190

広島支部

広島支部の第9回同窓会は、平成25年10月19日（土）クルージング船『銀河』にて41名の参加者で開催され、広島宇品港から宮島鳥居沖と広島湾を巡るランチクルージングを行いました（写真）。

当日は、同窓会本部から森孝明会長が、四国支部から新谷正信副支部長が、関西にきたつ会から平田篤資副会長が、東京章光会から森脇孝典事務局長が、そして法文学部総合政策学科を平成25年に退官された本田博利元教授にご参加をいただきました。

まず、河内康氏によるドラの合図で広島宇品港を出航。岡田支部長による挨拶の後に定期総会を開催した後、柳原博孝氏の乾杯により懇親会を行いました。

その中では、森孝明同窓会会長による『旧制松山高等学校とドイツ寄贈図書』の貴重なお話しを伺ったり、事務局から今回ご都合で参加できなかった同窓生のメッセージを配布させていただいたりして、とても楽しい会となりました。

また、海風に吹かれながらの広島湾のクルージングについても、宮島鳥居沖に停船させてのデッキタイムでは、ふだんなかなか見る機会のない海上からの厳島神社社殿や大鳥居の幻想的な景観を間近に観たりと、およそ2時間半にわたる懇親会を過ごしました。

最後の締めくくりでは、応援団出身の道田祥隆氏のエールに続いて、『愛媛大学学歌』、逍遥歌『若葉の古城』『三光寮を歌う』を声高らかに歌い上げ、名残を惜しみつつ、来年もまたお会いしましょうと散会となりました。世代を超えた交流を通じて、より同窓会の意義を高めていただいたように思います。

第10回広島支部総会のご案内

日時　平成26年10月11日(土)11：30～
場所　『ホテルグランヴィア広島』（広島駅北口）

広島支部設立10回目の記念大会を昼食会を兼ねて開催する予定です。広島支部では法文学部だけでなく、工学部や農学部・教育学部などの出身者も参加されていますので、みなさまお誘いあわせのうえ多数のご参加をお待ちしています。

（広島支部事務局連絡先）
難波携帯　090-7777-6671
あさがお司法書士事務所内品川
Tel ／ Fax　082-208-5886（品川瑞）

四国支部

平成25年11月8日（金）18：00より、ピュアフル松山4Ｆ孔雀の間において法文学部同窓会四国支部第8回総会を開催しました（写真）。また、平成26年４月5日（土）大学に集合し、奥道後バスの送迎でホテル奥道後内の離れにてお花見を開催しました。県外からの参加者も多く、25名以上が奥道後温泉の雰囲気を満喫しました。来年は会場の都合で場所が変更となります。

第9回四国支部総会のご案内

下記の要領で総会･講演会及び懇親会を開催します。ぜひご参加ください。

日時　平成26年11月14日(金)　18：00～
場所　ピュアフル松山（旧勤労会館）4Ｆ
孔雀の間にて
総会記念ミニ講演会
演題　「法文学部の再編と使命」
講師　加藤好文法文学部長
懇親会（会費　5,000円予定）

出欠は同窓会報に同封の参加通知葉書でお願いします（10月25日まで）。参加予定者には別途案内予定です。

第5回同窓会お花見のご案内

平成27年は奥道後ホテルでの開催を断念し、市内中心部で開催します。下記の概要をご参考の上、多くの方をお誘い頂きご参加ください。

日時　平成27年4月18日（土）14：00～
場所　松山市二番町2-3-2　すし丸本店
電話　089-941-0447
会費　3,000円予定

葉書にて参加申し込みを頂いた方及び本年度の参加者には、4月4日頃に最終案内をする予定です。
※会場は予約済みですが　やむを得ず変更する場合があります。その場合も関係者には事前連絡予定です。

（四国支部事務局連絡先）
〒790-0047　松山市余戸南1-6-26（玉井方）
担当　副支部長　玉井周平
携帯　090-8973-7650
E-Mail　tousui78@yahoo.co.jp

同窓会 提供講座『社会と人間』 報告

7年目となる2013(平成25)年度提供講座は、法文学部同窓会の全面的支援の下、法文学部の卒業生を講師として下記の日程で開催されました。

例年通り、後期の毎週木曜日・第5限目に開催し、全15回、26名の講師にご協力いただきました。今年も100人近い学生が受講し盛況でした。2014年1月23日㈭には、お手伝いをしていただいた現役学生に感謝状を贈呈し、講師陣も交えて校友会館内のレストラン「セトリアン」で反省会と懇親会を行いました。

回	テーマ	担当日	担当講師名	卒業年・学科
1	ガイダンス	10/3	池川　孝文	1972・法
			畠中　節男	1979・法
2	公務員として働く	10/10	大西　孝史	1999・経
			塩出　武志	2003・総政
3	税理士として働く	10/17	河内　泉	1978・法
			武田　涼子	2000・総政
4	警察・消防で働く	10/24	上田　憲二	1976・法
			寒作　典員	2000・総政
5	経営者として挑戦	10/31	宮首　賢治	1980・人文
6	映画業界で働く	11/7	住田　陽一	2002・人文
7	教育の現場で働く	11/14	清家　信孝	1976・文
			子川小百合	2000・人文
8	働く女性の現在	11/21	重松　直江	1994・経
			楊　泓	2002・総政院
9	小売業で働く	11/28	米澤佑佳子	2008・総政
			三浦　弘行	2005・総政
10	金融業で働く	12/5	永田　充孝	2006・総政
			山中　幸恵	2008・人文
11	愛大職員として働く	12/12	河野　太志	1996・法
			竹本亜希子	2003・総政
12	地域農業振興への挑戦	12/19	渡部　祐衣	2013・総政
13	アナウンサーとして働く 放送業界で働く	1/9	後藤　珠希	2006・総政
			小田　歩	2005・総政
14	20代の先輩と語る	1/16	渡部　文	2007・総政
			佐々倉　愛	2008・人文
15	まとめ	1/23	森　孝明	1968・文独

2013年度提供講座の学生に対するアンケート結果

興味深かった講義

1位　働く女性の現在
2位　地域農業振興への挑戦
3位　アナウンサーとして・放送業界で働く
4位　映画業界で働く
5位　20代の先輩と語る

満足度

大変満足している	64.2%
やや満足している	35.8%
若干満足している	0.0%
不満足である	0.0%

感　想

自分に近い年齢の方から離れた方まで様々な年代の話を聞くことができとても貴重な授業だと感じた／就活中なので仕事をする心構えや仕事の内容を聞くことができて役に立った／2回目だが何度受講してもおもしろい／会社説明会と似た要素もありつつ距離が近くて落ち着いて話を聞くことができた／業界のことを詳しく話してほしい／受講生が多すぎて発言の出来ない人がいるのがもったいない／教室が少し狭く席も余裕がなかった

2014年度 提供講座・寄付科目開講のお知らせ

▶2014年度 法文学部提供講座 開講計画

回	テーマ	担当日	担当講師名	現職
1	ガイダンス	10/2	鳥生　勉歳	法文学部同窓会事務局長（アマノ印刷）
2	県職員として働く	10/9	梅木　邦加	愛媛県　保健福祉課　主任
			白石　理俊	愛媛県　東予地方局環境保全課　主事
3	通訳・翻訳家として働く	10/16	菅　紀子	通訳・翻訳家
4	国税専門官として働く	10/23	楠本　京司	松山税務署　法人課税第3部門
			西田　和眞	元松山税務署長（法文学部同窓会理事）
5	経営者として挑戦	10/30	宮首　賢治	㈱インテージホールディングス　代表取締役社長
6	アナウンサーとして働く・放送業界で働く	11/6	月岡　瞳	南海放送アナウンサー
			小田　歩	㈱放送技術社（eat愛媛朝日テレビディレクター）
7	金融業界で働く	11/13	矢野　一彦	㈱愛媛銀行　本部リスク管理部　次長
			渡部　由理	㈱愛媛銀行　金融コンサルティング部
8	映画業界で働く	11/20	住田　陽一	日活㈱ 映像事業部門 版権営業グループ ライツ営業チーム
9	働く女性の現在	11/27	重松　直江	重松直江税理士事務所
			楊　泓	松山東雲女子大学・松山東雲短期大学 国際交流課
10	警察・消防で働く	12/4	梶川　成保	愛媛県警察本部　警備課災害対策補佐警部
			寒作　典員	松山市東消防署　予防担当主査　消防司令補
11	教育の現場で働く	12/11	山田　暢子	松山大学講師・松山聖陵高校講師
12	地域農業振興への挑戦	12/18	渡部　祐衣	ななおれ梅組合研修生
13	報道業界で働く	1/8	白川　亜子	愛媛新聞社　編集局　生活文化部
			北山　裕貴	愛媛新聞社　メディア推進局　メディア開発部
14	学習塾を起ち上げる	1/15	田尾　昭憲	総合学習塾フィットグループ最高責任者
15	まとめ	1/22	森　孝明	法文学部同窓会長（放送大学 愛媛学習センター長）

▶2014年度 法文学部寄付科目 実施状況

学期	学科	科目名	時間割	担当教員
前学期	総合政策学科	総合政策特講	土曜1限	水口　和寿（松山短期大学教授）
	人文学科	伝統文化論	水曜3限	山川　廣司（非常勤講師） 畑守　泰子（非常勤講師）
後学期	総合政策学科	経営学特講	木曜2限	熊谷　太郎（松山大学経済学部准教授）
	人文学科	国際交流の基礎	月曜5限	敷村　弥生（非常勤講師・まつやま国際交流センター所長） 高橋　志野（愛媛大学国際教育支援センター准教授） 宮田さつき（非常勤講師）

＊同窓会員の方は聴講無料です。詳細は教育支援課法文学部チーム（TEL. 089-927-9220）までお問い合わせください。
また同窓会ホームページ（http://koyu.ehime-u.jp/houbun/blog/）でもご覧いただけます。

講師の方に感想をお聞きしました！

第3回「税理士として働く」講師

河内泉税理士事務所
河内　泉

今回、「税理士として働く」というテーマで学生の皆さんに話をする機会をいただきました。

私は学生時代に法学科に在籍しましたが、決して模範となる学生ではありませんでした。当時は出席をとらない授業も多く、日々の授業にはあまり出席しないで、試験の直前だけ勉強して単位を取得するということを繰り返していたと思います。在学中は将来のことを真剣に考えることもなく、卒業する直前にゼミの担当教授を通して紹介していただいた大阪の企業に就職しましたが、2年で退職し松山に帰って再び就職活動をしました。これといった能力もない人間でしたから企業にも相手にされず、結局税理士事務所でアルバイトとして働くこととなりました。

当時の私は何の能力も資格もありませんでしたが、その税理士事務所を通してある人と出会ったことが私の人生を変えました。その人はたった一回しかない人生の中で職業会計人(税理士）として生きることの素晴らしさを教えて下さいました。税理士は租税正義を実現するために中立・厳正・独立の姿勢を堅持し、国家の財政需要を正しく充足しつつ、正当な納税者の権利を断固守ってゆくという崇高な職業だから君もやってみないかと言われたような気がしています。私はその考え方に共感し、昼は家族のために働き、夜は寝る間を惜しんで勉強し何とか税理士試験に合格することができ、現在、税理士事務所を営んでいます。

全ての人間は一回だけの人生をその終焉に向かってひた走っています。私は学生時代ではなく、卒業して数年後に初めてそのことに気づきました。今回の講義で私は後輩である学生の皆さんに、学生のうちに「人生の一回性」に気づき、早く人生の目標をもって豊かな素晴らしい人生を送ってもらいたいという思いで話をさせていただきました。時間の都合上、税理士の職業としての内容や素晴らしさをあまり伝えることができなかったことが心残りです。

最後に、今回私のような者に話をする機会を与えて頂き、貴重な体験をすることができました。本当に有り難うございました。

第12回「地域農業振興への挑戦」講師

農業組合法人 ななおれ梅組合 研修生
渡部　祐衣

同窓会提供講座「社会と人間」の講師を務めさせていただきありがとうございました。

講義にあたって、2013年に法文学部を卒業したばかりの私が、社会人としてまだまだ後輩に講義できるほどの知識も経験も無いのに努まるだろうか、という不安しかありませんでした。ですが、実際に講義をしてみて、非常に良い経験をさせていただいたと思います。テーマが「農業への挑戦」で法文学部とは違う畑の話にもかかわらず、講義中は後輩の真剣な表情が大変印象的でした。また、質疑応答でのやりとりを通して労働環境への期待など、どのようなことを考えて就職しようとしているのかが分かって、私自身大変勉強になりました。ありがとうございました。

講義の内容としては、私自身の学生生活で失敗したことや海外へ短期留学した時のこと、挫折したことなどの、人生におけるターニングポイントで周囲の方に助けてもらえたことで今がある、というものでした。

それは、私が一時期ひきこもり生活をしていた時に、様々なきっかけで人生の先輩方と出会い刺激を受けて、農家になるという夢に向かっている今に至るまでのひとつの物語なのですが、伝えたかったのは誰にも必ず周囲に助けてくれる制度や先生や友達や家族がいるのだということです。だから思い切って相談してみて欲しいということです。

現代は家の外に出なくても、人に会わなくても十分生活できる環境が整っています。私もその環境に甘んじて大学生活を送ってきたのだと感じています。ですが、今の環境とは違う世界に出てみる、人に会ってみるということがいかに自分の視野を広め、希望や目標を膨らますのかを身を持って経験しました。

私は在学中にゼミの先生に「梅干が好きなんですよね」という一言から始まり、現在、農家さんの指導を受け梅作りの農家を目指しています。最近思うのは「たかが梅。されど梅。」です。どんな世界でもその深さは計り知れません。何があってもやりたいと思うことはやれば良いと思います。学生の皆様、頑張ってください。応援しています。

論文・エッセイ紹介

愛媛大学ミュージアム企画展として「松山高等学校（現愛媛大学）草創期の歴史発見――ドイツ図書展384冊 展」が平成25年11月17日（日）から26年1月31日（金）まで開催されました。法文学部同窓会の森会長が中心となって展開されたこの企画展は、当初、年末までの予定が、会期を1ヶ月延長するほどの反響がありました。その目録から、企画の概要部分を転載します。

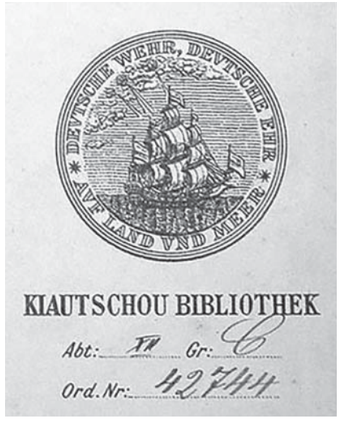
「青島守備軍司令部」寄贈ドイツ図書と旧制松山高等学校

放送大学愛媛学習センター所長（愛媛大学名誉教授・同窓会長）　森　孝明
（1968年　文独卒）

芸予地震でドイツ図書を発見

平成13（2001）年３月24日午後２時39分、愛媛大学卒業式の終了後間もなく、大きい地震が松山を襲い、一瞬のうちに研究室の書架が倒れて本が床を埋め尽くしてしまった（写真１）。瀬戸内海を震源地とする震度５強の地震だった。散乱した本を廊下に積み上げて片付けていたある日、古びて表紙が今にも取れそうな本が手に触れた。中を見ると、表紙の裏に貼り付けた四角い紙に、三重線の輪と帆船の絵が描いてある（写真２）。絵の周りには円形に沿ってドイツ語で”DEUTSCHE WEHR, DEUTSCHE EHR ＊ AUF LAND UND MEER”（ドイツの防衛、ドイツの誉れ＊陸と海において）と書かれてあり、円の下には”KIAUTSCHOU BIBLIOTHEK”の文字がある。ひょっとするとこの帆船の図は、陸海合わせたドイツ軍の印ではないか。奇妙な思いにかられて次の頁をめくった。すると題頁の左下に楕円形のスタンプが押してあり、”Kiautschou-Bibliothek ＊ Tsingtau”（膠州図書館＊青島）と書いてある。左上には「松山高等学校図書印」があざやかな朱色を見せ、右端には「青島守備軍司令部」寄贈と筆で縦書きしてある（写真３）。本の終わりには「松山高等学校寄贈図書第532号洋書」のスタンプも押されていた。松山高等学校は大正８年に設立、昭和25年に閉校し、国立愛媛大学に姿を変えた。高校の図書もそのまま大学図書館に移った。そして図書館から借り出された本はいつの頃からか、法文学部人文学科の独文研究室にあったのである。

（写真１）芸予地震（平成13年3月24日）で崩れた研究室の本棚



（写真２）研究室で発見されたドイツ図書

（写真３）青島守備軍司令部から松山高校へ寄贈された本と判明

青島から384冊が松山へ

ドイツ帝国の租借地となった中国の青島にドイツ海軍が駐留したのは、明治31（1898）年からである。松山高等学校を継承した愛媛大学がその蔵書を引き継いだのは当然だから、その蔵書が研究室にあってもさほど不思議ではない。しかし、ドイツ軍所有図書館の本が、日本の青島守備軍司令部寄贈という形で松山高等学校へ運ばれたのは一体どんな事情によるものなのか。図書館の学術情報係に行くと、謎は簡単に解けた。係長が一枚の「調査の依頼」文書を見せてくれたのである。それは某国立大学の教授からのもので、依頼書は、「旧日本軍が中国・青島にて鹵獲（ろかく）した書籍等の追跡調査」である旨があり、その状況として、「1914（大正３）年に中国・青島にて旧日本軍によって鹵獲された旧ドイツ公官庁所蔵の書籍および旧膠州図書館（Kiautschou-Bibliothek）所蔵の書籍、合計26,260冊は、1922（大正11）年に、全国32箇所の国の機関、中、高等教育機関に分配されました（青島守備軍から送付）。防衛庁防衛研究所図書館にある資料綴り（『大正八年以降青島鹵獲書籍ニ関スル件』）によりますと、貴大学の前身であります旧制松山高等学校には、合計523冊が配布されたと記録されています。」と書かれてあった。係長は更に奥から『寄贈図書登録番号原簿・松山高等学校図書課』と記されたＢ４判の古い大型ノート本を持って来た。そこには大正11年９月８日の日付で、登録番号377以下384冊のドイツ語の書籍名がペンで記入されている。寄贈者の欄には英語で”Headquarters of Tsingtao”(青島守備軍司令部）と書かれている。依頼書の年号と一致している。ただし書籍数は一致していない。

この『原簿』には本の出版年も記載されている。それによれば、松山に送られた「青島守備軍司令部」寄贈図書の最も新しい本の出版年は1914年であった。この年は青島で日独戦争があった年である。ドイツ軍は戦争の直前まで兵士たちのためにドイツ本国から新刊の書籍を取り寄せていたことになる。『原簿』には、研究室で見つかった書籍も確かに記載されていた。

なぜドイツ図書が松高へ来たのか

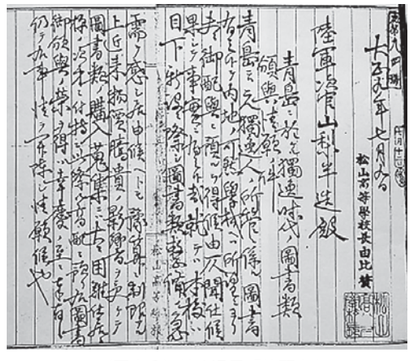
ことの始まりは第一次世界大戦であった。大正３（1914）年８月初めに第一次世界大戦がヨーロッパで始まるや、日英同盟の関わりから、日本はドイツと戦争に入り、わずか77日間で日本軍が青島を攻めてドイツ軍を降伏させた。その結果、日本は「青島守備軍司令部」を設置し、ドイツ軍所有「膠州図書館」蔵書及びドイツ官庁等所有の書籍・文書26,000冊以上を鹵獲した。以後、青島守備軍の手で書籍類の調査と目録作成が行われ、その大部分は日本へ輸送されたのである。

この鹵獲書籍の行方を知る手がかりが、防衛省防衛研究所資料閲覧室にある『大正八年以降青島鹵獲書籍ニ関スル件』と題された一連の書類にあることがわかった。その中に、東京帝国大学、東北帝国大学、松山高等学校、上海東亜同文書院及びドイツ大使館が陸軍省に出した鹵獲書籍に関する要望書等が残っている。青島守備軍は、これらの要望を考慮しながらも綿密な目録と分配計画を立てて陸軍省に送った。陸軍省はこれを修正し、最終的に大正11年２月20日に「鹵獲書籍寄贈分配表」を決定した。これに従って、青島守備軍が32箇所を上まわる寄贈先に書籍を分配送付し、作業は大正11年７月31日に完了した。

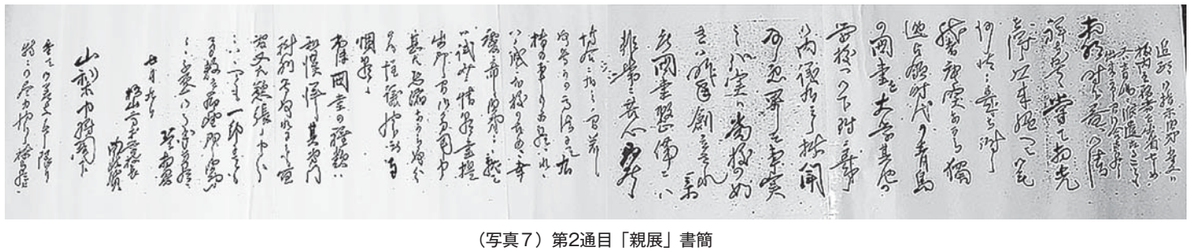
さて、東京帝国大学総長と東北帝国大学総長は鹵獲書籍のことを早くから知っていたことが、陸軍大臣宛書簡から見て取れるが、松山高等学校初代校長由比質（写真４）は、大正９年７月９日、陸軍次官山梨半造（写真５）宛に書籍「分与」の公的請願書（写真６）を出した。しかし不思議なことに、由比校長は同じ日付の手紙をもう１通、巻紙にしたためた「親展」封書（写真７）を、同じ陸軍次官に送っている。なぜそんなことをした

（写真４）由比質松山高校校長

（写真５）山梨半造陸軍次官



（写真６）第１通目「情願書」



（写真７）第2通目「親展」書簡

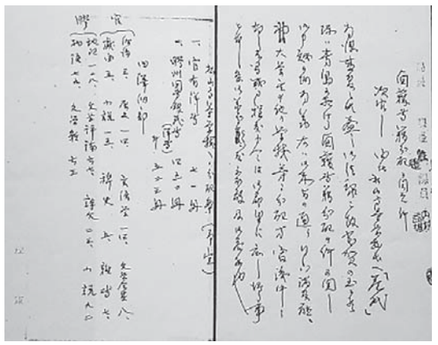
のか。「親展」書簡には、かつてお会いしたとある。２通目のねらいは、表からの公的書簡だけでは足りず、次官の懐に飛び込んで、願いを叶えて欲しい思いを伝えることだったと考えられる。校長は追伸を書き、更に冒頭の余白にまで「追啓」を書き加え、自ら陸軍省へ行ってもいいし、青島へ学校の事務者を派遣してもいいとまで書いているのである。手紙の日付も微妙である。守備軍参謀部が「分配表」を作成して陸軍省へ送ったのは大正９年２月27日であったが、陸軍省はそれから寄贈先の検討に入り、まだ結論を出していない時だったからである。

実は「分配表」の寄贈先の中に、すでに松山高等学校は第八高等学校の次に書かれ、全12高等学校中、山口高校に次いで２番目に多い523冊の配分になっていた。陸軍省が修正案を作るのは、５ヶ月後の大正９年７月23日である。しかも修正案には水戸高等学校が寄贈先に追加されていた。陸軍省が寄贈先の変更をするかもしれないこと、７月中に結論が出そうなこと、高等学校をどうするかが話題になっていることを、校長が知ったとしたらどうだろう。校長は７月９日に、陸軍大臣宛にではなく、かつて会ったことのある陸軍次官に請願書を書いたのである。彼は陸軍省の動きを知っていたのではないだろうか。校長の２通の書簡に答えて、陸軍次官は「拝復」の返書を校長に送っている。その下書きが公文書として保存されているのである（写真８）。他にそのような返書はなかった。陸軍省が最終案を作り終えるのは、更に１年７ヶ月後の大正11年２月20日のことである。

由比校長と山梨陸軍次官との結びつき

由比質校長は教育畑一直線の経歴を持ち、陸軍次官山梨半造と結びつくような気配はどこにもない。ところが、由比校長には、10歳年上の兄、陸軍軍人由比光衛（写真９）がいた。由比光衛は山梨半造より４歳年上だったが、二人の軍歴は極めて近く、陸軍大学校では２年間一緒であったし、日露戦争では二人とも参謀長として身近にいた。陸軍次官山梨半造は、実は青島ドイツ軍攻略日本軍の参謀長であり、日独停戦規約締結全権委員長を勤めた人物であった。一方、青島守備軍の最高責任者、最後の第５代青島守備軍司令官に大正８年６月着任したのは、由比校長の兄、陸軍中将由比光衛だったのである。『大正八年以降青島鹵獲書籍ニ関スル件』１巻にまとめられた「鹵獲書籍」に関する全体は、まさに彼が司令官着任の年に始まったのである。青島守備軍参謀部作成の「鹵獲書籍寄贈分配表」は、司令官監督のもとに準備されたはずである。図書がないに等しい状態で苦労している弟を知っていたであろう兄が、司令官として大量の鹵獲図書の分配計画に深く関与する中で、弟に何らかの情報を与えた可能性は、なかったとはいえないだろう。陸軍省の行動には守備軍司令官といえども口をはさむことは出来ない。弟に請願書を書くように勧めたのは、兄だったかもしれない。そして弟をかつて山梨半造に引き合わせたのも。弟が校長に赴任したのは、兄より２ヶ月早い大正８年４月だった。

それにしても、「本校ハ目下新設ニ際シ図書類整備ノ急需ヲ感ジ居リ候エドモ、予算ニ制限アル上近来物価騰貴ノ影響ヲ受ケテ、図書類ノ購入募集ニハ大イニ困難シオリ候」と訴える由比校長の言葉は、何か切羽詰ったものを感じる。このとき松山高等学校はどんな状況であったのだろうか。



（写真８）陸軍次官「拝復」返書の下書き

（写真９）由比比光衛司令官

開学間もない松山高校の状況

大正8年4月15日に初代校長に任令された由比質（京都三校教授）は、早速松山市公会堂を借り受けて仮校舎とし、第１回入学試験を松山中学校校舎で実施し、全国からの志願者986名の中より定員160名を決定し、二階建て松山市公会堂の仮校舎内部に、４教室、教官室、校長室、事務室、講堂兼図書室を設け、かくして大正８年９月11日に第１回入学式を行った。しかし、松山高等学校の船出は決して順調ではなかった。高校設立は国が決めたものの、設立経費は地元負担だったのである。何もかも借り物づくしの中で、一日も早く校舎を建て、学生寮も建て、図書室も整え、図書も充実させて、学生たちを勉学に集中させてやりたい由比校長の思いを誰か知るであろう。学校予算に余裕のあるはずがない。仮校舎の図書室にいったい何冊の書物が準備されていたのだろうか。

由比校長が請願書を書いたのは、高校創立１年を間近に控えた大正９年７月９日だった。それは、持田に新校舎が完成（写真10）し、８月23日に公会堂の仮校舎から引越しをする目前であり、９月１日には２回目の入学式を迎えて総数316名の学生たちとなる日が迫っていた時であった。「図書ノ種類ハ和漢洋ソノ専門科別等何レニテモヨロシク」、また「欲張リ」をいうようだけれども、「一部ニテモ多数ヲ希望イタシ候」と、校長はかつての面識を頼りに、同じ日に２通もの手紙を書いた。これに対する陸軍次官の返事は、「ある程度まではご希望に応じ得る」として、その予定は「523冊」であった。待望の図書が学校に届いたのは、それから２年後の大正11年９月のことである。冊数は

論文・エッセイ紹介

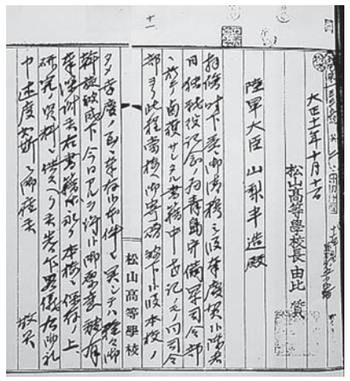
（写真10）松山高等学校新築校舎全景（大正９年）

384であった。２年前の予定数より百冊以上減っている。それはおそらく、大正９年４月に設立された水戸、山形、佐賀の３高等学校が、新たな寄贈先として追加されたことと関係していると思われる。全15校の冊数が「同一程度」になるように分配されたはずだからである。

由比校長は寄贈図書の礼状を、陸軍大臣になっていた山梨半造宛に書いた（写真11）。「日独戦役記念ノタメ青島守備軍司令部ニオイテ鹵獲サレタル書籍中左記ノモノ同司令部ヨリコノホド当校ヘゴ寄贈サレ候段本校ノタメ幸慶ノ至リト幸イニ存ジ候」。届いた冊数が予定より少なかったにしても、図書を待ち望む大勢の学生達を抱えていた校長にすれば、努力のかいがあった喜びを抱いたであろう。「本件ニ関シテハ種々御斡旋下サレ今日アルヲ将ニ御厚意ト有難ク幸ヲ深謝致候」。

日独を結ぶ歴史・文化遺産

青島から届いたドイツ書籍は、現在、愛媛大学図書館の松山高等学校図書書庫に静かに眠っている。「右書籍ハ永ク本校ニ保存ノ上研究ノ資料ニ供スベク候」。彼は校長に任命されて初めて松山に来たとき、県庁での記者会見で語っている。高等学校が「松山に出来るとすれば、愛媛県否四国の高等教育が普及される訳で」、「四国大学も設立するという按配になりたいものです。」（『海南新聞』大正８年４月30日）。高知出身の彼としては将来の姿を大きく四国大学と表現したのであろう。第二次世界大戦末期の昭和20年７月26日夜、松山は大空襲を受け、松山高等学校は章光堂と一部の校舎を残して焼失してしまった。しかし寄贈図書は無傷で残り、松山高等学校は愛媛大学に発展継承された。由比質校長の言葉通り、寄贈図書は永く保存され、研究の資料として役に立ったのである。



（写真11）由比校長の礼状

芸予地震によって図らずもドイツ図書の存在を知るところとなり、平成24年に図書館書庫を調査した結果、５冊を除く379冊の現存が確認できた。残りの５冊も学内に眠っている可能性がある。更に同年11月には、寄贈図書と一緒に届いたと思われる２冊目の『大正九年二月青島鹵獲書籍及図面目録（青島守備軍陸軍参謀部）』が図書館で発見された。これの表紙には、寄贈元の守備軍参謀部の手で、松山高等学校名と384冊の所属場所と冊数が明記されており、目録の中には、松山に届いた本の書名に印が付けてあった。この目録の発見によって、松山高等学校への寄贈図書の分配内容が一層はっきりしたのである。ドイツから松山へと戦渦をくぐっておよそ一世紀の時代を経てきたこのドイツ図書は、松山の歴史と文化を思うとき、日本とドイツを結び、平和へのメッセージのこもった歴史遺産・文化遺産として、いつまでも残しておきたいものである。

「青島守備軍司令部」寄贈ドイツ図書目録
（愛媛大学図書館、平成25年11月発行）より

かつて城北キャンパスの辺りには、軍事施設として歩兵二十二連隊が置かれていました。しかし、「軍隊」という物々しい響きからは想像できない伸びやかな一面が、子規や虚子、碧梧桐の明治期の文章から伺えます。同人誌「いしぶみ15号」に掲載された廣田理事の一文を転載しご紹介します。

城北練兵場

元高校教諭　廣田　章子
（1965年　文国卒）

戦争資料展と「平和学」の講演

平成17年は、戦後60年という節目で、これまでに様々な出版や行事があった。

10月の中旬、愛媛新聞の「へんろ道」に昭和20年7月26日の松山空襲のことを書いた投稿が載った。文末の名を見ると、中学・高校の同級生であった。彼女は国鉄に勤務する父を松山に残し、母の実家のある香川県に、母・兄妹で疎開していた。７月26日には、松山へ帰宅する予定であったが、祖母が強く引き留めるので断念した。乗車予定の列車が松山へ着くころ、松山はＢ29に激しく攻撃された。予定変更を知らなかった父上は、機銃掃射を受けた列車の中、下まで探し、3人の生存をあきらめた。が、1週間後、香川の義母宅を訪ね、妻子の無事を知ったという内容だった。

この記事を読む前に校内の掲示板にはってあったチラシで、和田寿博先生が中心になり開催された愛媛大学での戦争資料展と「地域と世界（平和学Ⅰ）」の戦争体験者の講演を知り、コピーをとっておいた。その講演で松山空襲も語られることを知っていた。それへの案内もかねて、久しぶりに連絡をとった。

独身の私とは違い、彼女は家を継いだため、昔のままの姓だったので、同級生とすぐ分かったのである。電話での話で、共に疎開していた兄上は、心臓の病気で夭折され、彼女が家を継いだことも知った。兄上は空襲は逃れたけれど、病気で亡くなられたのだった。ＦＡＸでそのチラシを送った。

当日、私は久しぶりに愛大キャンパスの、階段教室に腰を下ろした。と、声をかける女性がいて、何年か会ってないのに、すぐ彼女だとわかった。この暑いなか、よく参加してくれたとうれしく席を並べた。

その日の講演の最初は、「アジア・太平洋戦争と松山空襲」、２番目は、松山在住の人の疎開先での体験談であった。そして、その方が現在指導している朗読会でのテキスト、戦争・原爆詩の、大学生による朗読であった。話すことを職業としている人の語りは、感銘深かった。が、私の興味は、最後の「視察　城北練兵場跡地」にあった。

というのは、正岡子規がベースボールを松山に紹介したころを書いた文に練兵場が出てくるからである。私の卒業大学の城北キャンパスが練兵場の跡にできたこともちろん知っている。大学と城山の間を通る平和通りに建った子規の句碑に「草の花練兵場ハ荒れ尓介り」（明治28年）と彫られていることも知っている。だが、どうしても納得のいかない点がある。それが氷解するかも知れないということで大いに関心があったのである。

子規と虚子・碧梧桐の出会い

練兵場とは文字通り、「兵を訓練する場」であろうが、私が自分の目で見た軍隊関係の場は、沖縄の嘉手納基地であったり、韓国・ソウルで見た竜山基地であったり、韓国・北朝鮮間の非武装地帯である。それらは高いフェンスや鉄条網で囲われ、入口には検問の厳しい関所がある。そんな光景と、東京ではやっているベースボールを教えたりするのんびりさと、それらがどうしてもむすびつかないのである。

そもそも城北練兵場は、明治19年に松山に歩兵二十二連隊が置かれ、22年に開設された設備である。『子規全集』22巻の年譜では、

〈明治22年〉
○７月９日（水）船上で朝を迎え、午後３時、三津に着き、人力車で松山へ帰る。
○夏　帰省中、竹村鍛・河東可全らと城北練兵場で野球のマッチをする。
○夏　帰省中、城北練兵場で中學生の虚子らに友人たちと共にバッテングを披露する。虚子は、後にその時の一人が子規であることを知る。

この最後の項の根拠になったのは、高浜虚子の『子規居士追懐談』であり、その部分を引用すると、

「松山城の北に練兵場がある。或夏の夕此處へ行つて當時中學生であつた余等がバツチングを遣つてゐると、其處へぞろぞろと東京がへりの四六人の書生が遣つて來た。余等も裾を短くし腰に手拭をはさんで一ぱし書生さんの積りでゐたのであつたが、其人々は本場仕込みのツンツルテンで脛の露出具合もいなせなり、腰にはさんだ手拭も赤い色のにじんだタオルなどであることが先づ人目を欹たしめるのであつた。
「おい一寸お借しの。」と其うちで殊に脹脛の露出したのが我等にバットとボールの借用を申込んだ。我等は本場仕込みのバツチングを拝見することを無上の光榮として早速其を手渡しすると我等から其を受取つた其脹脛の露出した人は、其を他の一人の人の前に持つて行つた。其人の風采は他の諸君と違つて着物など餘りツンツルテンでなく、兵兒帯は緩く卷帯にし、この暑い夏であるのに拘らず尙ほ手首をボタンでとめるやうになつてゐるシャツを着、平べつたい俎板のやうな下駄を穿き、他の東京仕込みの人々に比べ餘り田舎者の尊敬に値せぬやうな風采であつたが、而も自ら此一團の中心人物である如く、初めは其儘で輕くバツチングを始めた。先のツンツルテンを始め他の諸君は皆數十間あとじさりをして爭つて其ボールを受取るのであつた。其バツチングは中々たしかで其人も終には單衣の肌を脱いでシヤツ一枚になり、鋭いボールを飛ばすやうになつた。其うち一度ボールは其人の手許　を外れて丁度余の立つてゐる前に轉げて來たことがあつた。余は其ボールを拾つて其人に投げた。其人は「失敬。」と輕く言つて余から其球を受取つた。此「失敬」といふ一語は何となく人の心を牽きつけるやうな聲であつた。旋て其人々は、一同に笑ひ興じ乍ら、練兵場を横切つて道後の溫泉の方へ行つてしまつた。
此バツターが正岡子規其人であつた事が後になつて判つた。」

また、河東碧梧桐も『子規の回想』でこう書いている。

「私が子規宗の一人になつて、發句といふものを初めて作つたのは、それから四五年後の明治二十三年であるが、それまでに子規と私との間に一つのエピソードがある。
當時まだ第一高等學校の生徒位にしか知られてゐなかつたベースボールを、私が習つた先生といふのが子規であつたのだ。私の十六になった明治二十一年の夏であつたと記憶する。當時東京に出てゐた兄から、ベースボールといふ面白い遊びを、歸省した正岡にきけ、球とバットを依託したから、と言つて來た。 子規と私とを親しく結びつけたものは、偶然にも詩でも文學でもない野球であつたのだ。それで松山のやうな田舎 にゐて、早く野球を輸入した、松山の野球開山、と言つた妙な誇りを持つてゐるのだ。
球が高く來た時にはかうする、低く來た時にはかうする、と物理學見たやうな野球初歩の第一リーズンの説明をされたのが、恐らく子規と私とが、話らしい應對をした最初であつたであらう。兄とは違つた、何處か粋な口のきゝやうから、暖かなやさしみを持つた態度の前に、私は始終はにかみながら、もぢもぢしてゐた。團扇の柄を兩手で揉むやうにして煽いでゐた仕種までまでが妙に慕しかつた。」

いずれにしても、東京から帰省した、年上の人たちから、最近都ではやっているものを教えてもらう喜びにあふれている。この二人が後に子規門下の「双璧」と呼ばれる少年たちである。そして、虚子の場合、その場所が、前年に開かれた城北練兵場というわけである。

愛大裏門の近くにある「陸軍省所轄地」の碑

「視察　城北練兵場跡地」

さて、「平和学」の「視察　城北練兵場」が始まった。明治、大正、昭和の各時代の写真が紹介されるのかと思っていたが、話だけだった。黒板に城北練兵場の図が書かれた。今、愛大と東中・日赤病院の間を通る道は、当初なかったこと（その北詰にある護国神社は昭和14年にできたことは、山頭火の日記に出ている）、時には塹壕を掘ったり、埋めたりしたりで変化はあったが、だだっぴろい草むらであったことなどが分かった。会場から年配の男性が２、３人上がってきては、「こうじゃった」「いやここはこうじゃった」などと、書き足していく。
今も電車の軌道と愛大の間に走る小川は、当初からのものである。低い土手があったり、ハゼの木があったりしたようだ。グライダーの滑空訓練もあったとか（これは、城北女学校出身の、『学徒動員』の著書を中心としてまとめられた近所のＫさんからも伺った話である）。とにかく、広く草はらが広がっていて、訓練がないときは、だれもが自由に出入りできたそうだ。また、昭和24年には、松山市制60周年産業復興博の会場にもなったという。
また、愛媛新聞社刊の『わすれかけの街―まつやま戦前』で

「敗戦まで広大な広場でおなじみの城北練兵場が存在……〝レンペイ〟を遊び場とした松山っ子のいかに多いことか。狭っくるしい公園の遊具の間を縫うように遊ばねばならない現在にくらべ、戦前は遊び場の空間だけはぜいたくなものだった。
練兵場が設置されたのは明治22年のこと（二十二連隊の創立は明治19年）。温泉郡一万村の耕地六万坪を買収して使用することになった。練兵場は西北のすみに塹壕があったほかは、一面の野原で年二回ほどていどの管理だった。二十二連隊にいた人に聞くと、ここでの訓練はごく基礎的なものだった。休憩時には草原に寝ころんでクローバーさがしを楽しんだ。」

大正天皇お手植えの松

そんなことで、私のはげしい軍事施設への思い込みも氷解していったのだが、次のことは知らず、思わず現状確認に外へ走り出た。それは「城北練兵場の遺物として現存するものは、大正天皇がここを訪れた時の記念のお手植えの松である」という事実であった。場所は同じかどうか分からないという。現在の城北キャンパスの正門から、西へ真っ直ぐ進み、工学部の大きな建物の前にある松がそれである。私が駆けつけたとき、南海放送のカメラマンがＶＴＲに撮っていた。「大正天皇お手植えの松という説明ぐらいつけとけばいいのに」と、同意を求めつつ、私もカメラに収めた。知らんかった。
〈転載にあたり、松を確認しに行くと、こんな説明板があった。「皇太子殿下（大正天皇）行啓記念の松／この黒松は、皇太子殿下（後の大正天皇）が明治三十六年十月十五日に／愛媛大学城北キャンパス（当時、松山歩兵第二十二連隊城北練兵場）を訪れ、記念植樹されたものです。／この松はすでに樹齢百十年を超えていると推定されますが、幾多の戦火を／耐え抜き、軍事訓練の地から教育の地へと生まれ変わる光景を見守りながら／今日まで生きつづけています。／これからさらに年輪を刻みつつ、若人たちの成長を見守ってくれること／でしょう。　／平成二十二年　愛媛大学」〉

城北練兵場名残りの松

愛媛大学ホームカミングデイ 開催のお知らせ

第5回 平成26年11月8日(土)

13:00～　同時開催イベント（愛大ミュージアム見学、植物工場見学など）

15:00～　式　典（南加記念ホール）

特別講演：「鉄と塩と文化の海廊・瀬戸内海今昔物語」

講演者：村上　恭通　愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター長

17:00～　懇親会（大学会館１階）

◎来場の節目の卒業生(※)にプレゼントがあります。

(※) 卒後10年目から5年ごとの節目の卒業生
昭和30年卒、35年卒、40年卒、45年卒
50年卒、55年卒、60年卒
平成2年卒、7年卒、12年卒、17年卒

※事前申し込みが必要なものがありますので、
下記にお問い合わせください。

溌剌としたダンスで会場を盛り上げたダンスＡＺのメンバー（第４回）

ミニ同窓会の開催を応援します！

※当日、学部・学科・サークル等ミニ同窓会（10人以上）の開催を応援します。
（実施経費1人あたり2,000円を上限に援助。全体の上限60,000円）
申請期間：平成26年9月1日（月）～10月17日（金）
◎卒業生ならどなたでも参加可能です。皆さまのご参加をお待ちしております。
◎条件や申請書など詳しいことは下記にお問い合わせください。

愛媛大学校友会事務局
電　話：089-927-8610　FAX：089-927-8609
メール：office@koyu.ehime-u.jp
愛媛大学総務部総務課総務･法規チーム
電　話：089-927-9016　FAX：089-927-9025
メール：soumu@stu.ehime-u.ac.jp

ハナちゃん情報

ハナちゃんは元愛大職員の方のお宅で
悠々自適に暮らしていると思われます。
（詳しいことは分かりません）

赤間教授のブログ
http://d.hatena.ne.jp/akamac/ より

法文学部 人事異動（2014年4月1日付）

（昇　任）

教　授	佐藤　智秋	総合政策学科	政策情報科学講座	統計学
准教授	権　　奇法	総合政策学科	ガバメント講座	行政法
准教授	藤川　　健	総合政策学科	マネジメント講座	企業システム論

（採　用）

教　授	松本　浩平	総合政策学科	応用法政策講座	民法
准教授	山本　寛英	総合政策学科	ガバメント講座	地方自治法
准教授	岡部　雅人	総合政策学科	ガバメント講座	刑法
講　師	梅田　道生	総合政策学科	政策情報科学講座	政策情報論
准教授	笹田　朋孝	人文学科	人文学講座	考古学
准教授	齋藤　貴弘	人文学科	人文学講座	西洋史
准教授	田中　尚子	人文学科	人文学講座	日本文学

（採用―継続）

寄附講座教授 有期契約職員	大西　正志	総合政策学科
寄附講座教授 有期契約職員	湯浅　良雄	総合政策学科
連合法務研究科教授 特定教員	高田　義之	総合政策学科

（他部局異動対象者）

総合政策学科	→	国際連携推進機構アジア・アフリカ交流センター	准教授	栗田　英幸
人文学科	→	先端研究・学術推進機構埋蔵文化財調査室	教　授	田﨑　博之
			准教授	柴田　昌児
			講　師	三吉　秀充

（敬称略）

勉学は心の糧　放送大学へ入学され「心の糧」を味わってください。

放送大学はテレビ等の放送や、インターネットを使って自宅で学べる通信制の大学です。
学位取得はもちろん、キャリアアップや自己実現など、生涯学習を目指す方をサポートします。
放送大学では心理学、福祉、文学、歴史、情報など、幅広い分野を学ぶことができます。
今、心理学の講座が人気です。

出願期間(予定)
○教養学部・大学院（修士選科生・修士科目生）
４月入学：12月１日～２月28日
10月入学：６月15日～８月31日
○大学院：修士全科生（年1回募集・選考試験あり）
８月中旬～８月下旬

多彩な放送授業約３００科目。１科目からでも学べます。

資料を無料でさし上げております。お気軽に、愛媛学習センターにご請求ください。

放送大学
放送大学　検索
〒790-0826　松山市文京町3番
放送大学愛媛学習センター
TEL 089-923-8544

法文学部同窓会本部・支部役員

（表紙に本部の連絡先、P10・11に各支部の連絡先を掲載しています）

本

	氏	卒業年		氏	卒業年		氏	卒業年
会	森　孝明	1968文独	理事【法】	赤松　英輔	1990 法	理事【経】	土井　明人	1998 経
副会長	小池　昭彦	1970文経	（事務局）	野嵜　明子	1993 法	（事務局）	後藤　珠希	2006総政
	池川　孝文	1972 法	〃	野本　学	1996 法	理事【文】	廣田　章子	1966文国
事務局長	鳥生　勉歳	1989 文	理事【経】	新谷　正信	1965文経	〃	穐岡　謙治	1968文地
監	高谷　宗武	1966文法	〃	松本　弘泰	1970文経	〃	加藤　好文	1975 文
	畠中　節男	1979 法	〃	安永　博邦	1973 経	〃	山本　求	1979 文
理事【法】	西田　和眞	1973 法	〃	吉野　隆彦	1977 経	〃	安藤あさみ	1979 文
〃	久保　泰敏	1974 法	〃	玉井　周平	1978 経	〃	松本　長彦	1981 文
〃	竹本　道代	1978 法	〃	高田　敬士	1980 経	〃	村上　和恵	1989 文
〃	酒井　悦男	1979 法	〃	渡部　雅泰	1985 経	〃	小林　紀子	1989 文
〃	山本陽一郎	1981 法	〃	馬越　祐希	1986 経	〃	和氣坂ハナミ	1996 文
〃	辻　正道	1982 法	〃	黒河　安徳	1986 経	〃	熊谷　広行	2001 院
〃	藤田　育子	1982 法	〃	杉田　栄治	1987 経			

東京章光会

	氏	卒業年		氏	卒業年		氏	卒業年
会	阿部　仁	1976 法	監	三村　藤明	1977 法	幹	稲野辺修一	1994 法
副会長	太田　重明	1968 法	幹	河田　新一	1963 経	〃	玉川　貴志	1994 経
	荒木　雅弘	1976 法	〃	宮本　潔	1968 法	〃	辻　正紘	2005総政
幹事長	清水　栄治	1981 法	〃	黒田　彰三	1969 経	〃	大村万夢里	2008総政
幹事長補佐	浅野　実	1982 法	〃	西岡　真吾	1970 経	顧	大西　盛美	1954 法
事務局長	森脇　孝典	1979 経	〃	大角　洋二	1974 法	〃	高田　恒夫	1957 経
事務局長補佐	西迫　和則	1983 経	〃	中川　正徳	1976 法	〃	森田　正	1958 法
会計担当幹事	青木伸一朗	1976 法	〃	田中　英三	1983 法	〃	松岡　勝博	1963 法
会計担当補佐	橋本　京子	1977 法	〃	名越　浩文	1986 法	〃	高崎　泰典	1968 経
監	三宅　一夫	1968 経	〃	西山　統	1986 経			

関西にきたつ会

	氏	卒業年		氏	卒業年		氏	卒業年
会	岡本　正明	1967 法	事務局	中西　龍太	1999 法	幹	和田	1968 経
副会長	平田　篤資	1968 法	幹	安藤　雅夫	1957 経	〃	細川	1968 法
	澤井　達夫	1972 法	〃	後藤　幹郎	1960 法	〃	前田	1970 法
会計幹事	吉富　太郎	1998 法	〃	大久保貫太郎	1962 法	〃	居林	1995 経
会計監事	合田　文男	1971 法	〃	坂本　維之	1966 経			

広島支部

	氏	卒業年		氏	卒業年		氏	卒業年
支部長	岡田　禎之	1965人乙	幹	藤田	1978 法	顧	竹本	1958人乙
事務局長	難波　宣久	1987 法	〃	梶原	1988 経	〃	楠本	1960人乙
幹	村上　道機	1968人乙	〃	品川	1993 法			

四国支部

	氏	卒業年		氏	卒業年		氏	卒業年
支部長	宇都宮真由美	1973 法	幹	小池　昭彦	1970文経	幹	鳥生　勉歳	1989文地
副支部長	新谷　正信	1965文経	〃	西田　和眞	1973 法	〃	小林　紀子	1989文英
	玉井　周平	1978 法	〃	菊池　久男	1975 法	〃	大石　祐貴	2006総政
事務局長	白井　瞳	1964文国	〃	山下　忍	1978 法	顧	前田　繁一	1955文法
事務局長補佐	後藤　珠希	2006総政	〃	竹本　道代	1978 法	〃	白石　隆	1956文法
監	真鍋八洲雄	1962文法	〃	河内　泉	1978 法	〃	仙波　太郎	1969文史
	渡部　浩三	2008院修	〃	花井　和司	1979 経	〃	森本　惇	1964文法
幹	大西　丈平	1965文法	〃	副　裕彦	1980 法	〃	森　孝明	1968文独
〃	杉本　英智	1966文経	〃	松本　長彦	1981文哲	〃	田中　正二	1976 経
〃	毛利　修三	1967文法	〃	山本陽一郎	1981 法			

EHIME UNIVERSITY NEWS

医学部附属病院で本院では初となるドクターカーを導入し、柳澤康信学長らが視察を行いました

2014.4.15(火)

◀ドクターカー

これまでの救急医療現場では、救急車で傷病者を病院に搬送してから、医師による診断、治療が行われていました。そのため、治療開始までに時間がかかり、救命率の低下に繋がっていました。しかし、このドクターカーを導入することで、災害（救急）現場にいち早く医師や看護師等が駆けつけることができ、搭載している医療機器による初期診断・医療行為を行うことで、救命率を向上させることが期待されています。

本院では、大規模災害時等において、愛媛県知事などから要請があった場合にドクターカーを出動させ、愛媛県全域を出動範囲としています。ただし、必要があれば県外に出動する場合もあり、災害復興等に従事する予定です。

柳澤学長をはじめ、大橋裕一理事、横山雅好理事、富田靖博理事らは、相引眞幸副病院長による概要説明を受けながら、搭載している車内の医療機器に目をやり、その充実ぶりに感心した表情を見せていました。また、実際にドクターカーに乗り込み、機器の説明を受けるなど興味深く視察を行い、今後の災害（救急）現場での活躍を確信している様子でした。

◀相引副病院長から説明を受ける柳澤学長

◀車内の様子

愛媛大学附属高等学校のマスコットキャラクター「Mr.Sheep」が誕生しました

▲マスコットキャラクター「Mr.Sheep」

このマスコットキャラクター「Mr.Sheep」は、本校情報部員が中心となり校内公募を行い、生徒会や選考委員会における選考の結果、決定したものです。本校をより多くの方々に知ってもらい、より親しみをもってもらえるようPR活動を行っていきますので宜しくお願いいたします。

【「Mr.Sheep」誕生までの道のり】

マスコットキャラクターのデザイン及びキャラクター名を校内生徒や教職員に募集したところ、前者には30作品、後者には230作品の応募がありました。そして、生徒総会や選考委員会からなる一次審査及び最終選考を経て、それぞれの最優秀作品が決まりました。

最優秀作品には、3年生の畝崎大海さんが考案したデザインが、キャラクター名は2年生の小林万珠さんが考案した「Mr.Sheep」が採用されました。本校では、農学部附属農業高校の時代から校内で綿羊が飼育されており、生徒や地域の方々に親しまれています。応募作品の中には、この綿羊をモチーフにした作品が多くあり、採用された作品も大変可愛らしいものとなりました。

考案した生徒2人には、高橋治郎校長から表彰状が授与されました。

「Mr.Sheep」は、すでにクリアファイルとして商品化されたほか、本校のホームページにも登場しています。これからも附属高等学校をよろしくお願いします。

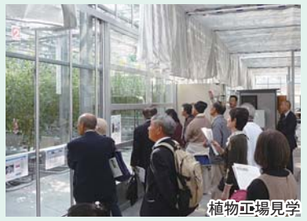
「第4回愛媛大学ホームカミングデイ」を開催しました

2013.11.9(土)

平成25年11月9日(土)、城北キャンパスで「第4回愛媛大学ホームカミングデイ」を開催し、卒業生、本学学生及び教職員あわせて約220人が参加しました。

ホームカミングデイは、卒業生の皆様や退職された教職員の方々を大学にお招きし、大学の教育・研究等の現状などを紹介するとともに、在学生や教職員との交流を行い、また大学の施設や学生祭を見学することで、母校へのご理解を深めていただくことを目的としています。

式典に先立ち、同時開催イベントとして、愛媛大学ミュージアムや樽味キャンパスにある植物工場の見学、本学職員の業務内容を紹介する「愛媛大学職員の仕事を知ろう」を実施し、多くの方に参加いただきました。


植物工場見学

ミュージアム見学

学歌斉唱(合唱団)

愛媛大学職員の仕事を知ろう

その後、医学部OBで世田谷記念病院副院長の酒向正春さんによる「脳卒中からの人間回復」と題した特別講演があり、「攻めのリハビリ」や「ヘルシーロード街づくり計画」などの貴重なお話がありました。

また、大学院理工学研究科修了生で校友会インドネシア支部立ち上げにご尽力いただいたSIGIT WIDODO(シギト ウィドド)さんによる挨拶、愛媛大学ダンスＡＺ.による元気いっぱいの演技披露が行われました。

◀シギトさんの挨拶

柳澤康信学長挨拶

酒向さんによる特別講演

ダンスAZによる演技披露

柳澤学長挨拶

歌手:えひめ憲一さん 役者:加藤富子さん

その後、大学会館で行われた懇親会では、歌手のえひめ憲一さん(農学部OB)の演歌披露や、役者として活躍されている加藤富子さん(教育学部OG)の挨拶が行われました。

また、本学と連携協定を締結している愛南町から特産品をPRする屋台を出展いただき、新鮮な海鮮物が振る舞われたほか、特産の「クエ」「ブリ」「鯛」が当たる抽選会も催され、会場の盛り上げに一役買っていただきました。

今回も、県内外から多くの本学関係者が参加し、改めて交流を深めることができました。

愛南町が出展した屋台

教育学部附属中学校講堂「章光堂」の耐震改修記念式典を実施しました

2013.11.2(土)

平成25年11月2日(土)、旧制松山高等学校OBを始めとする関係者の方々と共に、築90年を経過した章光堂の耐震改修を記念して式典及び祝賀会を開催しました。

附属中学校講堂「章光堂」は、愛媛大学の前身の旧制松山高等学校講堂として大正11(1922)年2月に現在地に建設されました。その後、昭和24(1949)年に教育制度の改正により旧制諸学校が愛媛大学に包括された際に、愛媛大学文理学部講堂となり、さらに、昭和38(1963)年、附属中学校が持田地区へ移転した際に、愛媛大学教育学部附属中学校講堂となって現在に至っています。

章光堂は、旧制諸学校の施設のうち、唯一現存する建物であり、昭和53(1978)年に愛媛大学保存建物に指定され、平成10(1998)年9月には国の有形文化財として登録されています。

このように長期間にわたって若者の成長を見守ってきた章光堂ですが、地震に備えて補強するため、平成24年8月から翌年3月まで、7か月余りの時間と総工費約6,200万円をかけて耐震改修工事が行われました。改修後の章光堂は、耐震性能(Iw)が0.48から1.17に改善しただけでなく、屋根の明かり取り窓の復元や床を杉板張りとするなど、目に見える改修も行われました。

午前中の記念式典では、附属中学校の平松義樹校長が式辞を述べ、柳澤康信学長からの挨拶に続いて、旧制松山高等学校同窓会の徳永昭夫会長ら章光堂にかかわる同窓会の方々から祝辞をいただきました。記念式典の最後には、附属中学校コーラス部が旧制松山高等学校寮歌を斉唱し、長い年月を経て再び章光堂に響く寮歌に、旧制松山高等学校OBの皆様は感激ひとしおの様子でした。

◀改修後の章光堂

▲附属中学校コーラス部による寮歌斉唱

▲講演する京都大学iPS細胞研究所 金子新准教授

▲生徒も参加した金剛流能楽師宇高竜成師による能の紹介

午後は、附属中学校卒業生の京都大学iPS細胞研究所増殖分化機構研究部門主任研究者の金子新准教授による特別講演「iPS細胞と近未来の医療」で幕を開けました。続いて、金剛流能楽師宇高竜成師に実演形式で能を紹介していただきました。同窓会関係者や保護者、近隣の皆様、そして附属中学校の生徒ら出席者は、未来の話と伝統ある文化を同時に堪能し、第一線で活躍する文化人に直に触れ、感動に浸っている様子でした。

メディアサポーターズ映像部が松山市の魅力を発信する動画コンテストで最優秀賞を受賞しました

2014.1.18(土)

今回、最優秀賞を受賞したメディアサポーターズ映像部は、本学公認ボランティア団体のSCV(スチューデント・キャンパス・ボランティア)に所属しています。SCVは、9つの団体から組織されており、教職員と連携しながら、本学の学生のために活動するという公共性の高さが特徴となっています。

メディアサポーターズ映像部は、学生視点で本学の情報を幅広く収集し、学内外に向けて発信することを理念として掲げており、「ぞなもしLIVES」という学内情報番組を年12回作成しています。「ぞなもしLIVES」は、学内で放送されているほか、愛媛CATVでも放送されています。

◀映像を制作する富田さん

今回、松山市の魅力を発信する「いい、加減。まつやま」をテーマとした動画コンテストで、1次選考を通過した12作品の中から、メディアサポーターズ映像部が最優秀賞を受賞しました。「松山巡り夏目漱石編」と題した映像は、夏目漱石ゆかりの道後温泉や愛松亭跡などの見どころを紹介したものとなっています。制作者である富田沙織さん(法文学部3回生)は「今までの活動が認められたようで嬉しかった。これから後輩たちには、やりたいことに挑戦して、よりよい番組を作っていって欲しい。」と受賞した喜びと後輩に向けたメッセージを話してくれました。

メディアサポーターズ映像部が最優秀賞を受賞した作品をはじめとした1次選考通過映像が、動画投稿サイト「YouTube」にて公開されています。また、愛媛大学公式チャンネルからは、メディアサポーターズ映像部が放送している「ぞなもしLIVES」を見ることができますので、そちらも是非ご覧ください。

From a Graduate 卒業生から

おたよりお待ちしています。

〒790-8577
松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内
愛媛大学法文学部同窓会
E-mail : aidai-houbun-dosokai@sings.jp

1968年卒業 菅　省三
［文理学部人文(乙)］

私が愛媛大学文理学部に入学したのは昭和39年で、当時の一般教養課程の講義は主として持田キャンパスに於いて、専門課程のそれは城北キャンパスで行われていました。そこでのキャンパスライフは牧歌的でゆったりとした時間が流れ、思い出の深い持田キャンパスの階段教室、記念講堂の章光堂など木造りの建物には、旧制松山高等学校のバンカラな雰囲気がかすかに残っていた様に記憶しています。

大学での講義の中で今も忘れ得ないのは、新しい学問としての哲学に接した時の感情の高まりと北沢先生の「哲学の原点は、ソクラテスの他者とのディアレクティケー（問答）である、場合によっては自問自答でもよいから折につけてそれを行い、諸問題の解を見つけ出すように」との御教示に出会ったことです。しかし元来消極的で何事にも自信の持てなかった自分にとっては、自問自答することも至難なことに思われましたが、就職後の機会を見つけての試行錯誤の結果、自分なりのやり方（可能な限り多面的に資料を集め、それを参考に自問自答を繰り返し、より客観的な解を見出していくといった）にたどり着き、今も「現在」を見つめることなどに活用しています。

さらに、大野先生の憲法の講義は、その内容のすばらしさだけでなく、法律用語の詰った難解な文章を頭の悪い私にも理解できるようにと、黒板に線でつないで絵のように書いて下さったその光景は、今も懐かしく思い出されます。また、卒業後はその教えに習って、複雑な文章等を覚えたりすることなどに活用させていただいています。

なお、入学時に目標としていました法律家への道は、２回生の後期の専門課程に進むといった時に、重いアレルギー性鼻炎に罹り、それまでの一夜漬けの暗記がまったくできなくなりました。このため当初の目的はおろか、卒業に必要な単位の取得にも汲々とするようなり、やむを得ず地元県の公務員になりました。安定的なものを志向して就職したにもかかわらず、その後の社会、経済等の変化が著しい中で、時として我をも失いかけたこともありましたが、何とか定年退職まで漕ぎ着けることができたのは、愛媛大学で学んだことが大きなバックボーンになっていたものと感謝しています。

30歳頃から余暇を活用するため油絵を描き始めましたが、37、8年たった今も方向性の定まらない模索と試行錯誤を繰り返しています。

ギャラリーにつきましては、退職した後の平成23年４月、自宅敷地内にまことにささやかなものですが、開設することができました。作品は、長年描いてきたなかで、数少ないけれども「何とか観る人の鑑賞に耐えられるかなと思われるもの」が偶然にも出来上がることがありましたので、それらを集め展示しています。その内容は、コスモスと薔薇などの花の絵が主体ですが、似たようなものはできるだけ避け、全体としてバラエ（薔薇絵）ティに富んだものになるよう、意を払っています。

以上のようなものですが、同窓会の皆様には、松山（道後）にお越しの際は、お気軽にお立ち寄り御観覧いただければ幸いに存じます。

ギャラリー「花宇宙」を開設しています

松山市岩崎町一丁目4-28　✆089(932)6838
毎週 木・金・土・日曜日　午後1時～5時まで展示
入場無料、駐車場なし
アクセス
伊予鉄道市内電車「道後公園前」下車 南へ徒歩5分

（旧姓 竹下）
2008年卒業 佐々倉　愛
［人文学科人間科学コース］

大学生の頃のワクワクした気持ち、最近感じられていますか？　私は2008年に人文学科を卒業し、現在NPO法人Eyesという団体で大学生と地域企業とが協働で行うインターンシップを仲介する仕事をしています。今年30歳になる若造ですが、今回は機会を頂いたので私の大学時代～現在～未来の展望を綴ると共にみなさんにもご自身の思いも再確認していただきたいです。

事務所でのワークショップ

実は私は大学に入学するまでに２年浪人生活を送りました。大学入学時の私はすでに20歳を過ぎており高校の同級生たちはのんきな私を横目に就職活動に直面していました。その時にハッとしたのです。「私は周りよりも２年遅れている。大学で２歳下の友達と同じままではいけないんじゃないか」と焦る気持ちがありました。

そこから将来のために就職活動の参考になるような経験ができないか調べて今の職場であるEyesに出会います。Eyesにはインターンシップ生として働くことを通じて、自分を成長させたい！　とチャレンジする学生がやってきます。みなさんも大学時代の頃は、見るもの聞くもの新鮮で新しい挑戦にワクワクする気持ちがあったと思いますが、今はいかがですか？

私は社会人になり３年が過ぎた頃から、そんな学生たちを目の前にしていても慣れや環境や人に依存するようになりました。自分から挑戦すること、環境を変えることが億劫になってしまって、でも淡々と過ぎる日々に何か物足りなさも感じる、そんな気持ちでした。ですが仕事を通じて出会った夫の影響もあり、私の暮らし方・働き方は少しずつ変わります。

夫は高知県で同様の仕事をしていますが、固定概念や環境に囚われない働き方をしています。四万十町という最寄りのコンビニまで50分かかる山の中で、移住してくる方々のサポートなども行っていますが、町内に留まることなく日本全国を行き来しながら、でも地元にも愛着を持って暮らしています。私はそれまで、なぜか働く場所と暮らす場所は同じ所・人でその環境の中で過ごし続けてこそ安定・信頼のある生活ができると思っていました。でもその価値観はとても古いですね。

大学生向けインターン説明会

現在は結婚・出産して１歳になったばかりの娘を四万十町で育てています。松山に隔週で通い（車で片道２時間）、企業や大学との打ち合わせや大学生との面談を行います。「大変だね」と言われることもありますが、田舎では仕事を探すのもそもそも難しいですし、何よりこの働き方は私に合っています。乳児がいると静かな時間はまずないので車で移動しながら考え事ができる、気持ちを仕事に切り替えられるというのが好きで楽しんでいます。

住所が１カ所ではないことや、目に見えないものをサービスとして仕事をしていることは想像しにくいと言われることもあります。でも、これから先の社会は終身雇用や１カ所で暮らし続けるような「安定」「確定」が難しい社会です。もちろん地縁やコミュニティは重要ですが、必ず「こうでなければならない」ことは少なくなる世の中だと思います。私は公私の境なく、見た目や環境に左右されずどんな形でも自分の生き方に自信をもって生きられる人を増やすこと、そのために、キャリア形成や事業創りの支援ができればと思っていますし、その上でこどもたちに個々ではなくお互いに暮らしも仕事も応援し合いながら一緒に生きることを伝えていきたいと思います。

娘と

こんな、新しい生き方をみなさんはどう思われますか？「変えていくこと」は必ずしも大事ではないかもしれませんが、「変わっていくこと」を受け入れ、楽しめるような人生・社会にしていきたいですね。大学生の頃のワクワクした気持ちでこれからの時間もお互い過ごしていけますように！

Graduation Memories

「モンゴル」だそうです

卒業生数

◆総合政策学科
昼間主274名 夜間主74名（計348名）
◆人文学科
昼間主137名 夜間主60名（計197名）

卒業生代表あいさつ
人文学科 吉川杏子さん

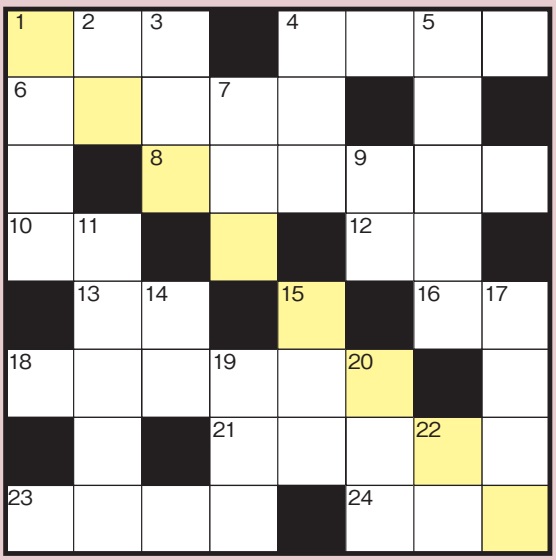
三木元学長から三木奨学賞を受賞される
総合政策学科 柴田哲徳さん

総合政策学科

人文学科

パズル

問題　クロスワードの色がついた部分の文字を並べ替え、愛媛県に関係の深い人物の名前を答えてください。



（出題：H16卒・矢野彰大 氏）

●ヨコのかぎ

① 『東海道中膝栗毛』の作者。十返舎○○○
④ 盆に返らず
⑥ 抑圧からの解放
⑧ 北海道に生息するカケス
⑩ ついて遊ぶ遊具
⑫ 長い間噛むお菓子
⑬ 空いた時間
⑯ 物理、化学、生物、地学
⑱ イギリス二大政党の1つ
㉑ 勲功華族
㉓ 地動説を唱えた学者
㉔ 労をねぎらう

●タテのかぎ

① インチキ
② 甲子園の外壁に
③ 硬い木の実
④ かけぶとん
⑤ 砂塵
⑦ お世話になった人に感謝を示す
⑨ 百万石
⑪ 2つ以上の駒に同時攻勢
⑭ 物体の隅に
⑮ 虚子も使った和風納涼具
⑰ むささびの得意技
⑲ 満ち引き
⑳ 回り道すること
㉒ 仮面のフェンサー

応募方法

同封の応募ハガキに正解をご記入の上、**2014年12月15日まで**に本会あてお送りください。

賞　品

図書カード1,000円分　20人

第17号 パズルの答え

正解：バリィさん・タオル

バ	イ	ナ	リ		シ	セ	イ
レ	イ		ツ	キ	オ	ト	シ
ー		タ	カ	ネ		リ	
	イ	ン		マ	イ	ア	サ
ル	イ	ダ	イ		コ	ン	
	ナ		サ	コ	ク		イ
ミ	ズ	キ	ナ	ナ		ビ	ブ
オ	ケ	ラ		タ	ー	ザ	ン

【解答】

前回パズル当選者【敬称略】　応募総数248通　解答者100人中、正解者97人

図書カード1,000円分（20人）

土井　明文（S38）、矢野　博朗（S59）、豊田　浩一（S60）、鍋島　隆一（S61）
佐藤　正（S62）、中林　慎治（S63）、山根　勝美（H１）、平野　嘉成（H６）
村上　公子（H７）、和氣坂ハナミ（H８）、山登　恵美（H９）、土井　明人（H10）
村田　剛士（H11）、三谷　里美（H15）、池田　聡子（H19）、川口　愛（H20）
門田　裕美（H21）、柴田　寛子（H21）、安藤　夏希（H24）、村上惣一郎（H25）

主なリクエスト

●大学として、また学部としての業績紹介を充実してほしい。●サークルの様子も知りたい。/ サークル特集してほしい。●現在の学生がどんな生活をしているかも知りたいです。/ 学生の生の声や活動の様子が知りたい。●リクエストにあったように、松山市内・大学周辺のことなどもう少し知りたいです。●同年代単位の同窓会があれば参加したいです。●ホームページを会員が参加しやすいものにしてほしい。●コラムが読みたい。●先生方の活動と卒業生のその後をもっと知りたい。●同窓会の各支部の活動、連絡先等、活動を広げる記事をたくさん載せていってください。●出来る限り学内の様子が写真等で知りたいです。

感　想

お褒めの言葉、お礼の言葉、励ましの言葉をたくさんいただきました。

●いろいろな方面で卒業生が活躍されている情報が読めて良かったです。●クロスワードパズル「楽しかったです。」「とても勉強になりました。」「答えは分からなかったけど面白かったです。（マニアックすぎるww）」●大学の様子が離れていてもよく分かり、楽しみにしています。●お世話になった先生方が退職されたことを知り、感慨深かったです。●音信不通となってしまっている恩師や同窓生の近況を知ることができる記事が楽しみです。●私は現在闘病中ですが、この会報を拝見するたびに懐かしく「頑張らなくては」と勇気づけられます。●本会報は私たち夫婦の「思い出アルバム」です。

パズル等の解答にいただいた個人情報は、同窓会事務局が適切に管理し、賞品の発送および名簿データの更新にのみ使用いたします。

役に立った記事、面白かった記事ランキング

1位は「退職された教員の方々」（33人）、**2位は**「研究室紹介」（32人）、**3位は**「EHIME UNIVERSITY NEWS」（29人）、4位は「Photograph around Campus」（27人〈うち「ハナちゃん情報」20人〉）、5位は「提供講座・寄附科目報告」（15人）。以下、支部だより（9）、卒業生から（8）、パズル（8）、同期会（6）、学部長・事務課長インタビュー（5）、平成24年度卒業記念祝賀会（4）など。

【編集後記】

- 愛媛大学では、法文学部の人間社会学部あ（仮称）、社会共創学部（仮称）への改編が検討されています。同窓会会報の大幅充実を図るため、従来の基本のカラー20頁建を今回からカラー 16頁・モノクロ16頁建に変更しました。皆様の投稿をお願いします。（池川）
- このたび、Facebook上に「愛媛大学法文学部就職相談室」を立ち上げました。これから先、大きく様変わりする大学の動きから目が離せません。（久保）
- 今回は担当記事を早めに仕上げられたので良かったです。常にこんな感じでいけたらいいのですけど（^_^;）（野嵜）
- 大学最前線のMr.Sheep名付け親に娘の名前を発見！ 法文学部最後の入学生になるかも……そんな巡り合わせに月日の流れを感じます。（小林）
- 読み応えのある今年の会報、皆さんの感想をお待ちしています。（後藤）
- 今回も最後の出稿と編集後記になってしまいました。ただ、記事は「さらば法文学部」という内容であって寂しさは隠しきれません。（山本）
- 名簿の充実のため、調査票を同封しました。現住所や勤務先など変更のある方もない方も、シールを貼って送ってください。ご協力お願いします。（鳥生）
- 高校の同窓会があり、楽しい時間を過ごしてきました。法文卒の同期会など開かれた方、近況や写真、愉快な原稿などお寄せください。（戒能）

発　　行　2014年9月
発 行 者　愛媛大学法文学部同窓会
編　　集　愛媛大学法文学部同窓会編集委員会
事務局所在地　〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内
TEL 089-917-6376　FAX 089-917-6476
印　　刷　アマノ印刷